

令和 6 年度
京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
学校改善支援プラン
調査結果分析

令和 7 年 3 月
京都府教育委員会

目 次

I 京都府学力・学習状況調査の概要

- 1 調査名称
- 2 調査目的
- 3 調査対象
- 4 調査時期
- 5 調査内容
- 6 調査の特徴

II 結果の概要

- 1 学力の状況
- 2 学力ステップの推移
- 3 学力層別に見た学力ステップの推移
- 4 質問調査の状況
- 5 学力が伸びた子どもの特徴について

III 結果からの考察

- 1 「学びのパスポート」の結果から得た授業改善の視点
- 2 「学びのパスポート」からの分析～算数・数学科に焦点化して～

IV 調査結果の活用

- 1 児童生徒の状況を多角的に「Research」し、「Vision」を共有し、「Plan」を立案
- 2 結果データを分析（Check）し、具体的な手立て（Action）を計画し実施
- 3 年度末に、今年度の学びの変容を再度「Research」し、次年度の「Vision」を共有し、「Plan」を立案
- 4 各研修会の内容
- 5 実践事例

I 京都府学力・学習状況調査の概要

児童生徒一人一人の学力の伸びや非認知能力の変容を確かめられる京都府独自の調査を実施

- 1 調査名称 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
- 2 調査目的 児童生徒の伸びや変容から、指導のポイント・課題を把握し、より効果的な指導を実現
- 3 調査対象 府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年～中学校第3学年（京都市除く）

【令和6年度受検者数（人）】

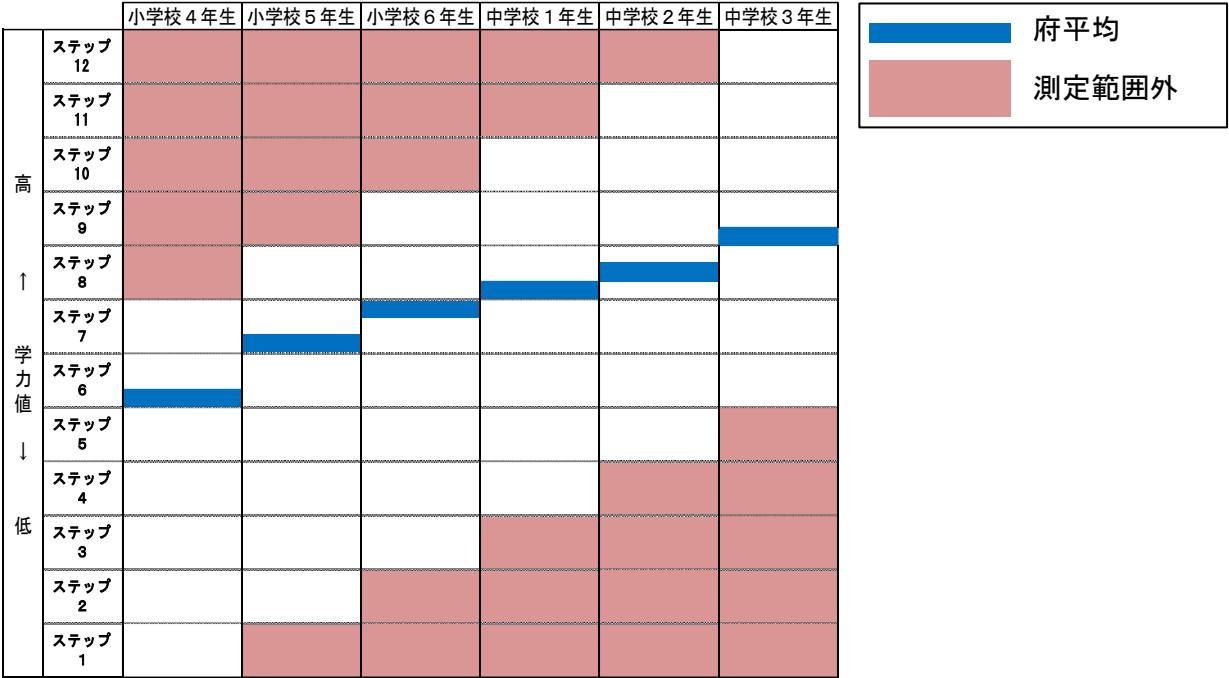
	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	8,944	8,960	8,950	8,770	8,761	8,684
算数・数学	8,936	8,966	8,946	8,773	8,761	8,683
英語					8,758	8,674
実施校数	197	197	197	100	100	100

- 4 調査時期 令和6年5月23日（木）～ 5月29日（水） 中学校
5月30日（木）～ 6月5日（水） 小学校
- 5 調査内容 教科に関する調査 小学校第4学年～第6学年：国語、算数
中学校第1学年：国語、数学（算数）
中学校第2、第3学年：国語、数学、英語
質問調査 生活状況、非認知能力、学習への取り組み方等、ICT利活用に関連する調査
- 6 調査の特徴＜IRT×CBT方式＞ **全府実施は全国初**
 - (1) 教科に関する調査及び項目反応理論【IRT（Item Response Theory）】を用いた学力の推定
 - ・異なる調査でも、調査結果を直接比較することができるIRTを用いることで、学力の伸びを確かめることが可能となる。
 - ・上記のためには、「過去問題」の利用が必要であるため、出題問題は非公表
 - (2) 非認知能力や学習への取り組み方等を確かめられる質問調査
 - ・京都府教育振興プランに示す3つのはぐくみたい力*、学習への取り組み方等について、複数の質問項目を組み合わせることで測定
 - （*「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」）
 - (3) 調査方法 1人1台端末で出題及び解（回）答【CBT（Computer Based Testing）】
- 7 返却する個人結果票：[個人結果票の見方](#) | [京都府教育委員会学校教育課 \(kyoto-be.ne.jp\)](#)

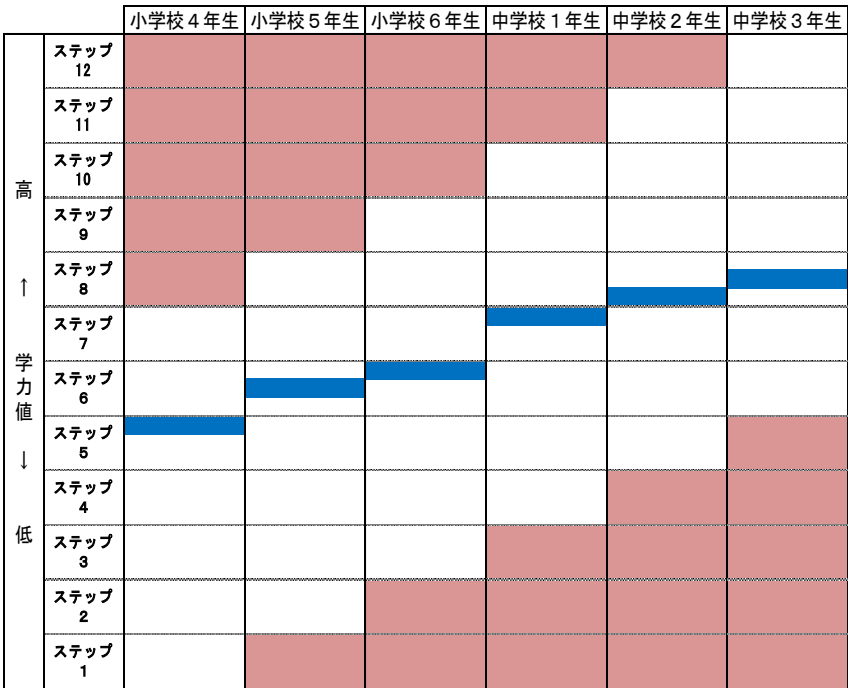
Ⅱ 結果の概要

1 学力の状況

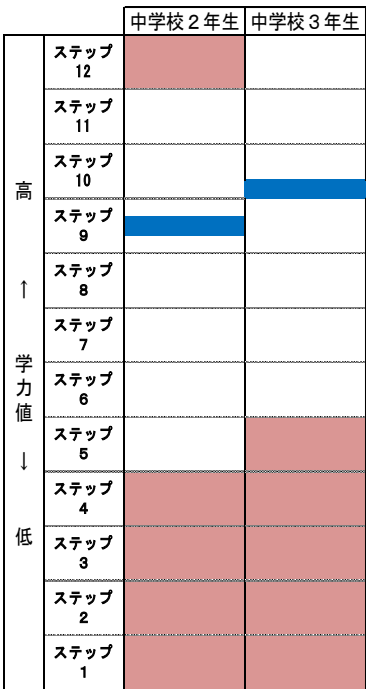
○令和6年度の各教科、各学年の府平均学力ステップ
国語



算数・数学



英語



※各学年の学力のステップは下記の範囲内【36段階（12ステップ×3層*）】で設定

小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
1-C～7-A	2-C～8-A	3-C～9-A	4-C～10-A	5-C～11-A	6-C～12-A

※各ステップの中で学力の高い順からA、B、C

2 学力ステップの推移

昨年度の調査から学力ステップが上がった児童生徒の割合は、小学校第5学年から中学校第1学年では、国語及び算数・数学において60～75%程度であった。中学校第2学年では、国語で58.1%、数学で46.3%、中学校第3学年では、国語で63.1%、数学で47.0%、英語で68.7%であった。

また、同一学年の学力ステップの推移を見ると、現学年としては、中学校第3学年の数学を除き、全ての学年・教科で昨年度から学力ステップが上がった。

中学校数学での学力ステップが上がった生徒の割合が低いことは課題である。

○昨年度の調査から学力ステップが上がった児童生徒の割合(%)

	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	75.0	68.5	71.9	58.1	63.1
算数・数学	63.9	60.0	67.5	46.3	47.0
英語					68.7

*教科に関する調査及び項目反応理論【IRT (Item Response Theory)】を用いた学力の推定による「学力ステップ上がる」ためには、次の3つの条件をすべて満たすことが必要

- ①調査の前年度に学んだ内容の問題が解けること
- ②調査の前々年度までに学んだ内容の問題も解けること
- ③前年度の調査に比べて難易度の高い問題が解けること

○同一学年の学力ステップの推移

○国語

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-A	令6 9-C
現中2				令5 8-C	令6 8-B	
現中1			令5 7-A	令6 8-C		
現小6		令5 7-C	令6 7-A			
現小5	令5 6-C	令6 7-C				
現小4	令6 6-C					

○算数・数学

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-B	令6 8-B
現中2				令5 7-A	令6 8-C	
現中1			令5 7-C	令6 7-A		
現小6		令5 6-B	令6 6-A			
現小5	令5 6-C	令6 6-B				
現小4	令6 5-A					

○英語

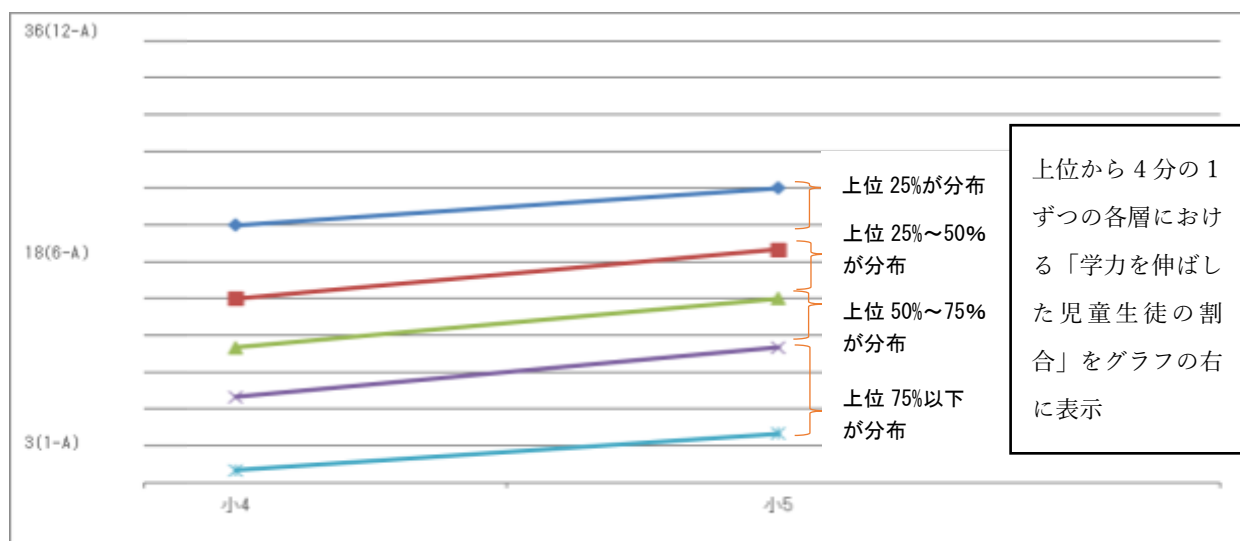
学 年	中2時	中3時
現中3	令5 9-A	令6 10-C
現中2	令6 9-B	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

3 学力層別に見た学力ステップの推移

小学校第5学年から中学校第1学年については、すべての学年・教科において、どの層もステップが上がる傾向が見られた。中学校第2学年及び第3学年の数学においては、中間層のステップの上昇が表れにくかった。また、全学年・教科において、上位層の児童生徒の方が、学力ステップが上がった児童生徒の割合が高く、下位層の児童生徒の方が、学力ステップが上がった児童生徒の割合が低いことが分かった。中間層の学力ステップが上がった割合が、他の層と比べて低いことが課題である。

【グラフの見方】

以下のグラフは、同集団の過去の学力ステップと今年度の学力ステップを比較し、その変化をグラフで表したもの。グラフの縦軸は、学力ステップを表す。目盛りは、個人結果票の学力ステップ(12段階)を表している。目盛りと目盛りの間は、それぞれ3段階(A,B,C)の差がある。



- ◆ ⇒ 最大値（最も学力が高い児童・生徒が属する学力ステップ）
- ⇒ 75パーセンタイル（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ）
- ▲ ⇒ 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ）
- × ⇒ 25パーセンタイル（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ）
- ＊ ⇒ 最小値（最も学力が低い児童・生徒が属する学力ステップ）

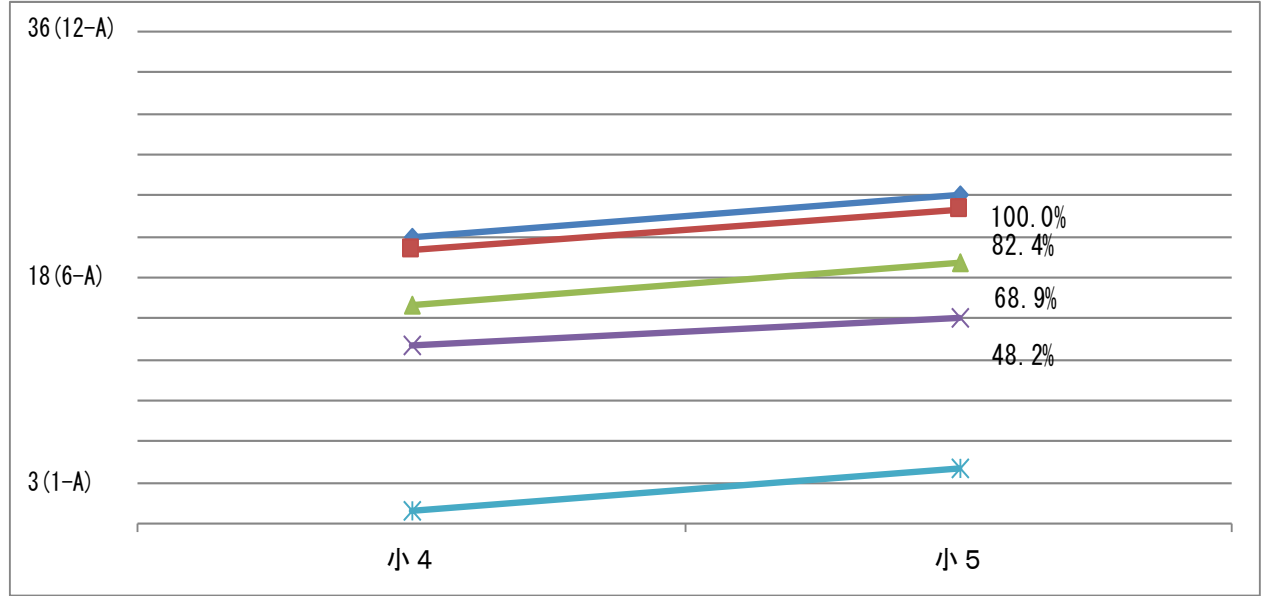
【グラフの見方】

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層の、いずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

小学5年 国語

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

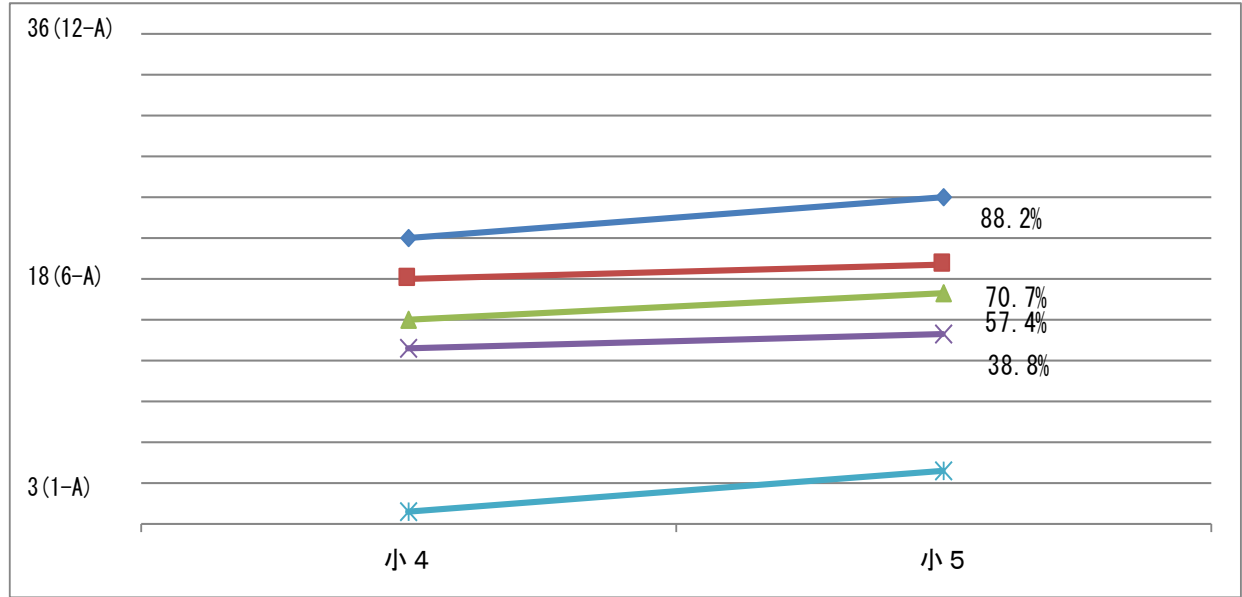
学年	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	20	23	－	－	－	－
中央に位置する児童生徒が属するステップ	16	19	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	15	－	－	－	－
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	－	－	－	－



小学5年 算数

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

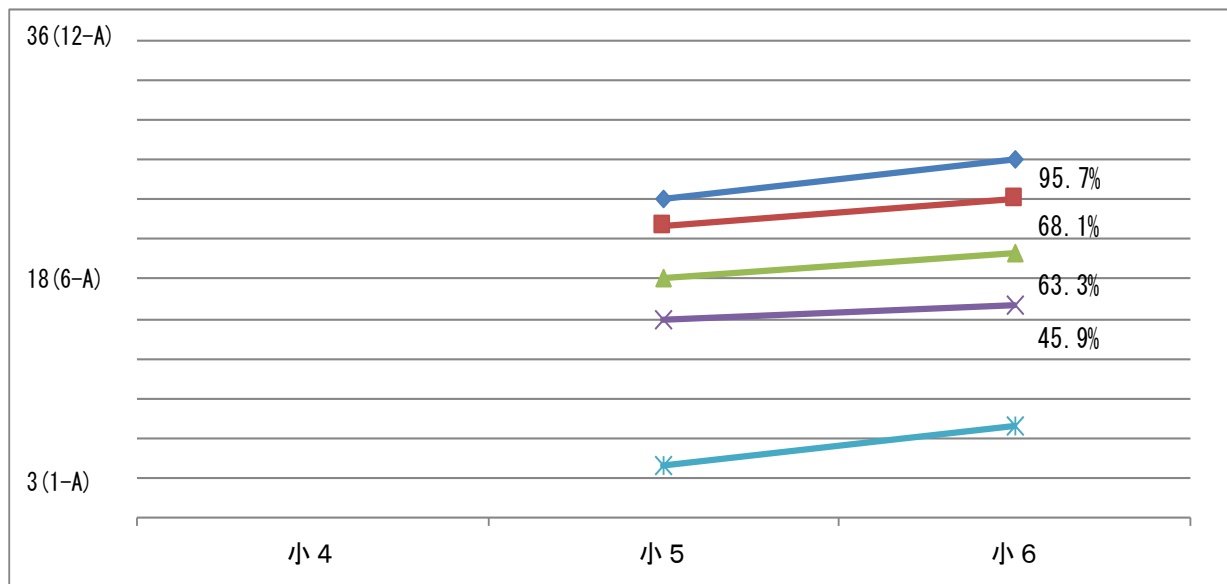
学年	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	18	19	－	－	－	－
中央に位置する児童生徒が属するステップ	15	17	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	14	－	－	－	－
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	－	－	－	－



小学6年 国語

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

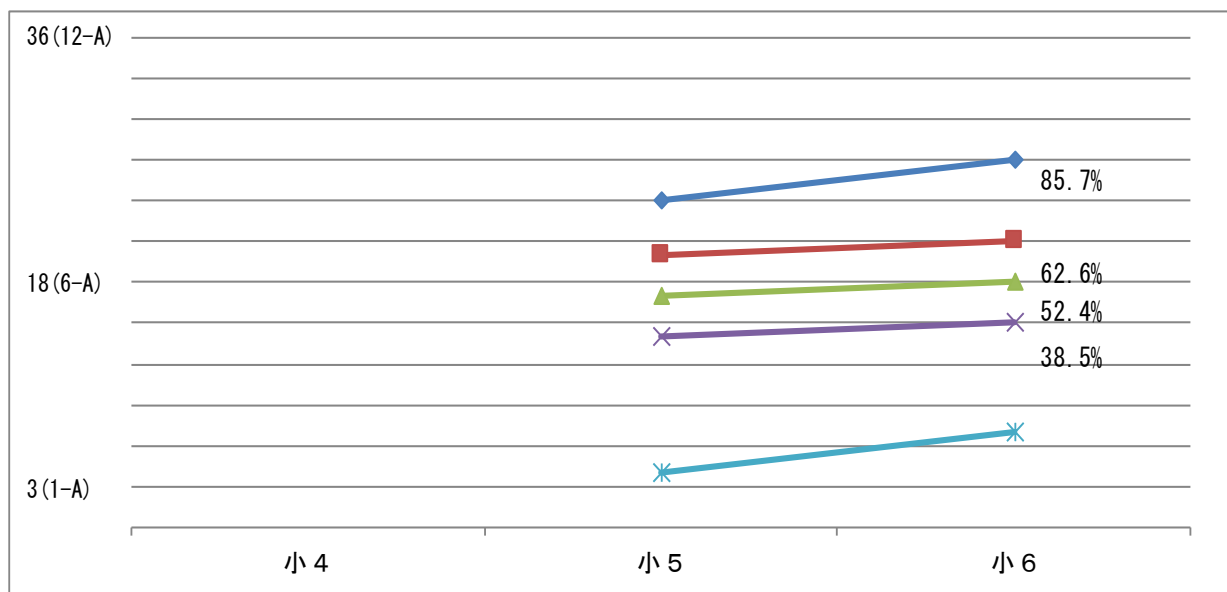
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	22	24	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	18	20	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	15	16	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



小学6年 算数

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

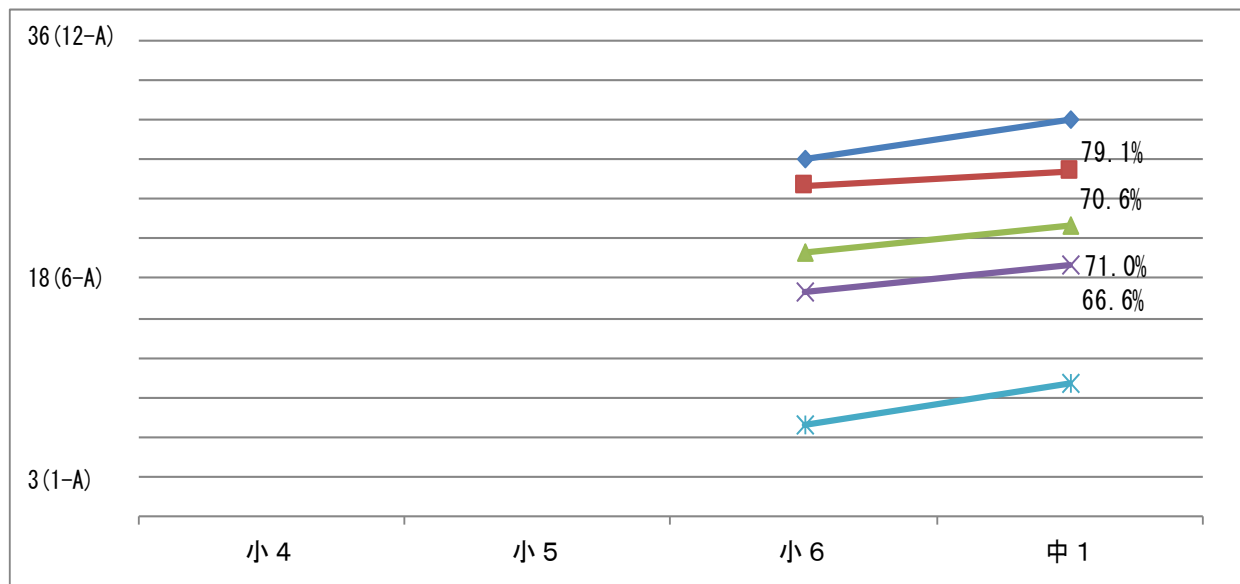
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	20	21	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	17	18	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	14	15	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



中学1年 国語

【平成30年度小学校入学。（現中学校1年生）】

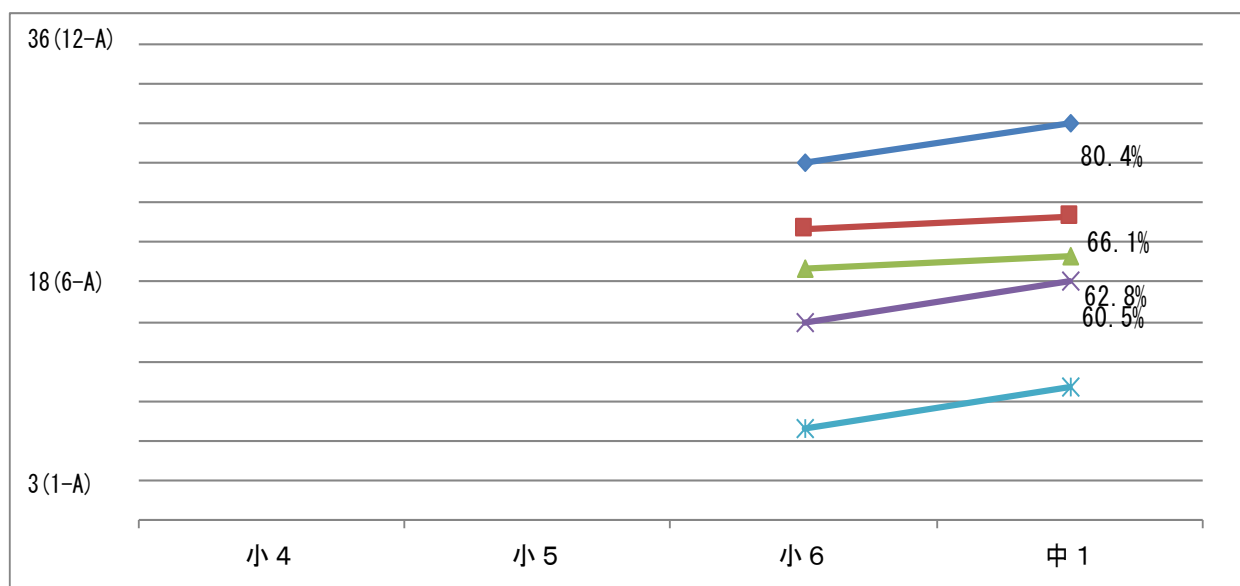
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	25	26	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	20	22	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	17	19	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学1年 算数・数学

【平成30年度小学校入学。（現中学校1年生）】

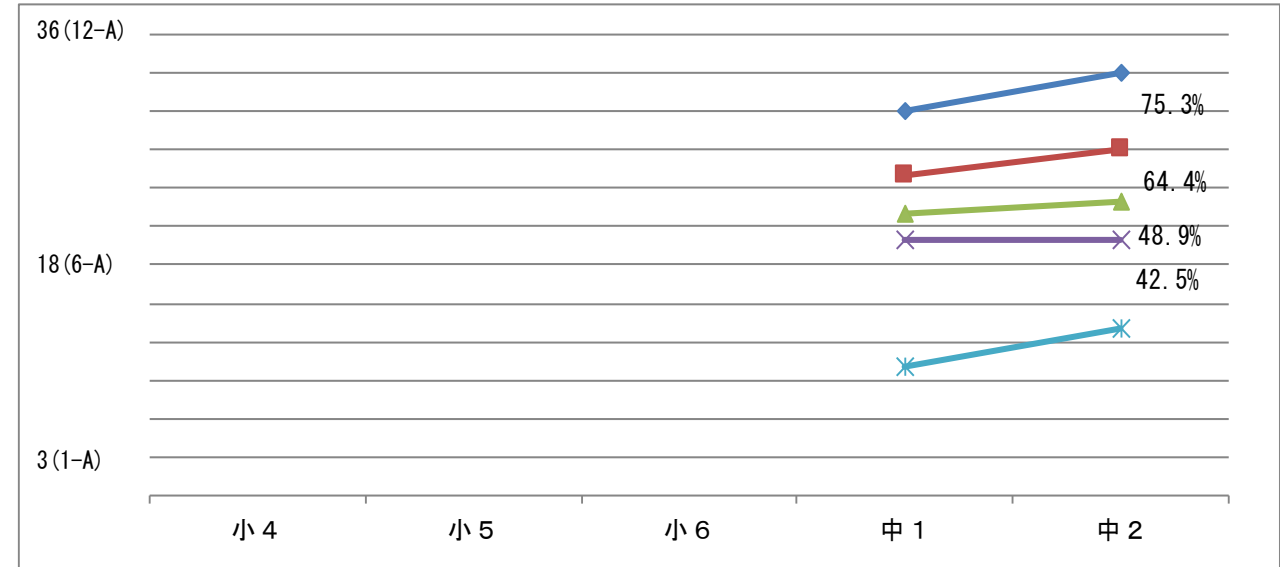
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	22	23	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	19	20	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	15	18	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学2年 国語

【平成29年度小学校入学。（現中学校2年生）】

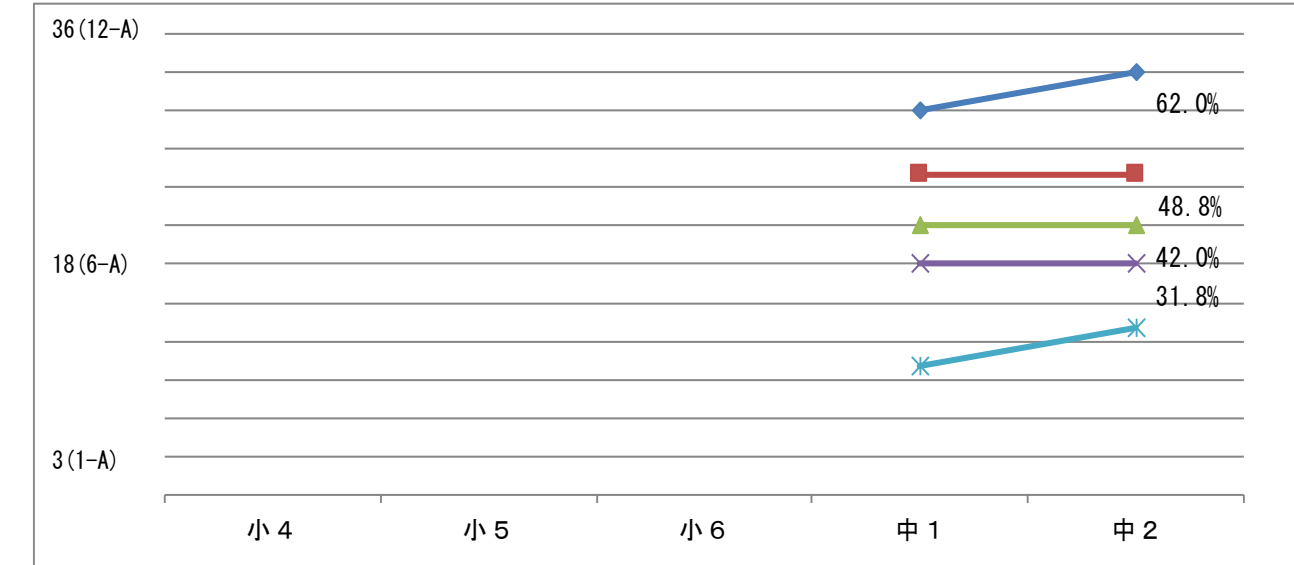
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	27	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	22	23	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	20	20	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学2年 数学

【平成29年度小学校入学。（現中学校2年生）】

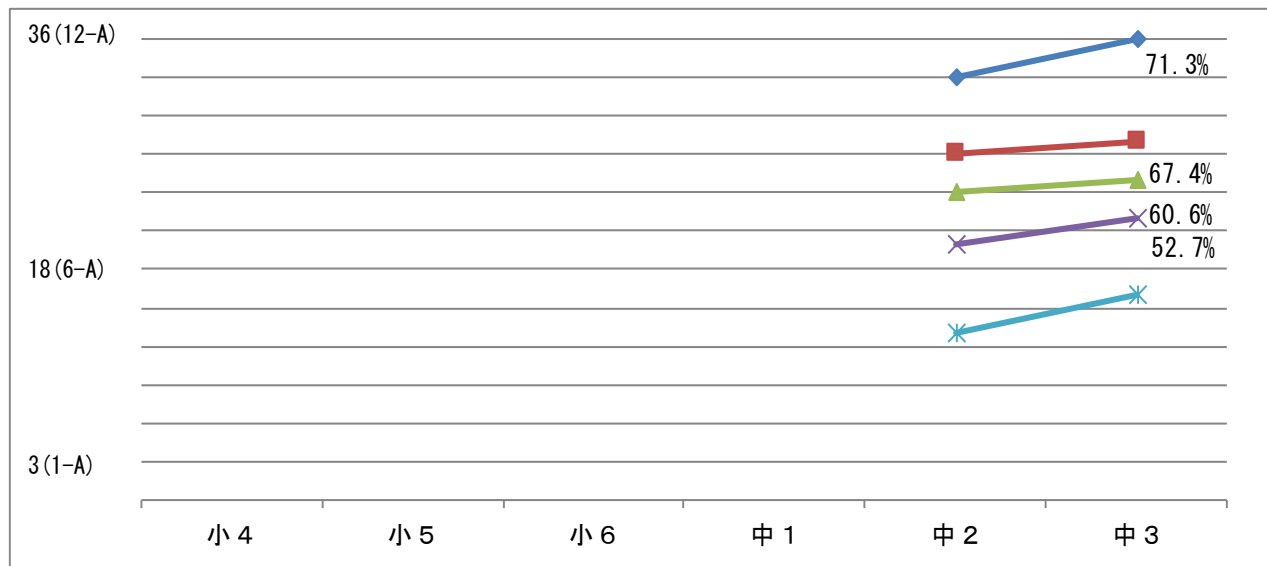
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	25	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	21	21	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	18	18	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学3年 国語

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

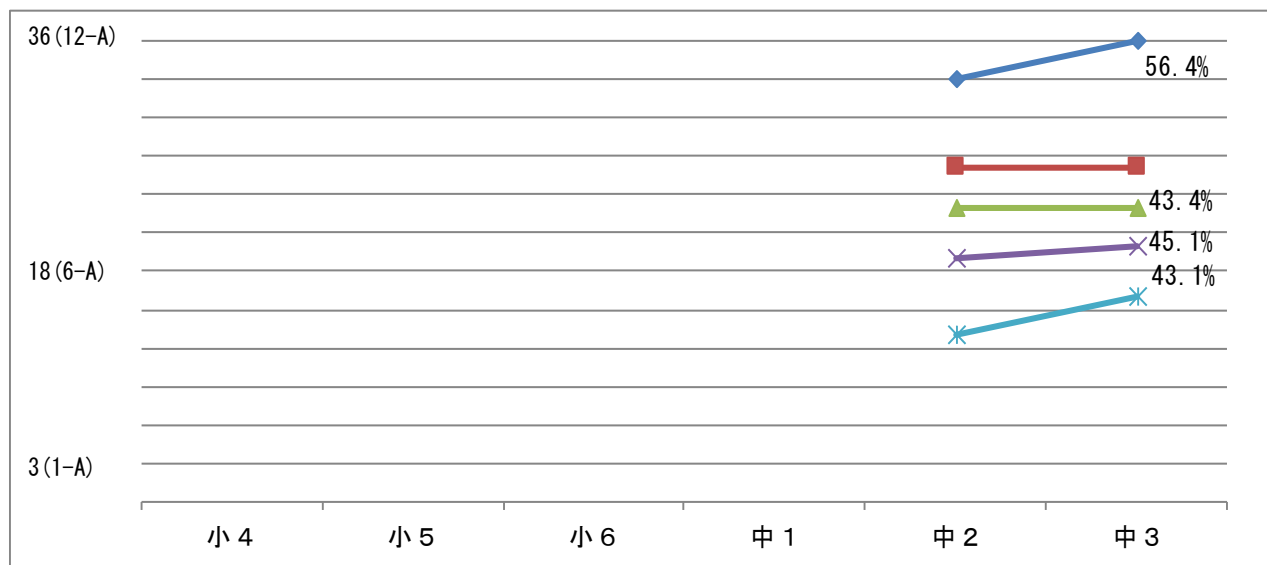
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	27	28
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	24	25
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	20	22
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 数学

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

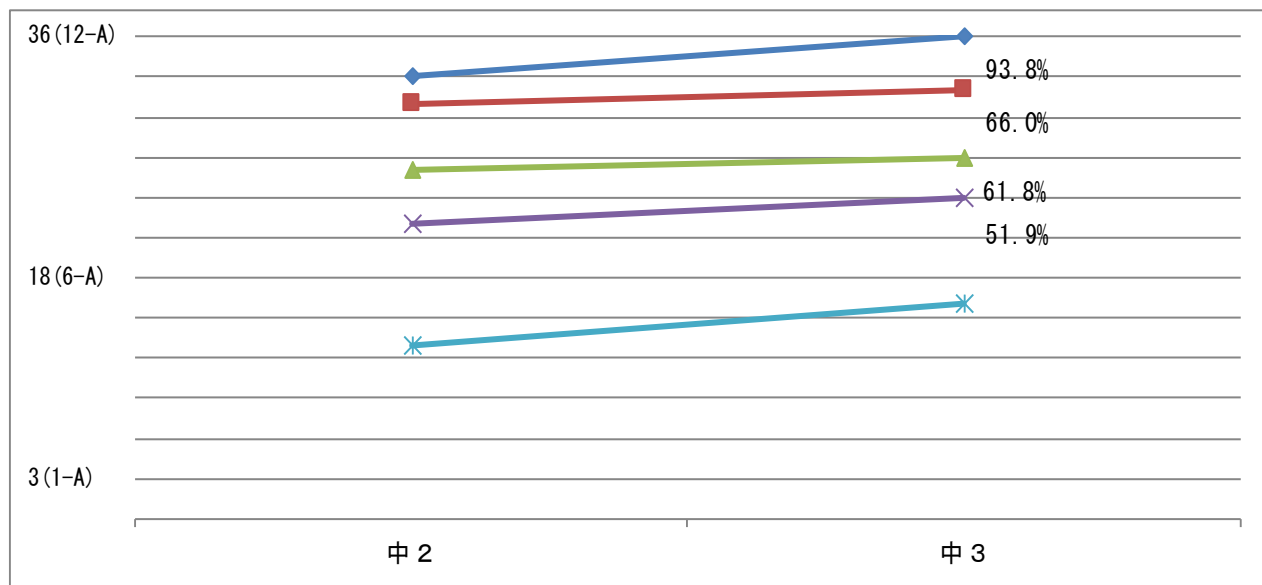
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	26	26
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	23	23
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	19	20
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 英語

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

学年	中 2	中 3
最上位の生徒が属するステップ	33	36
上位から25%に位置する生徒が属するステップ	31	32
中央に位置する生徒が属するステップ	26	27
上位から75%に位置する生徒が属するステップ	22	24
最下位の生徒が属するステップ	13	16



4 質問調査の状況

(1) 教科に関する調査結果と質問調査結果の相関関係(例)

教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との間には正の相関関係があり、その大きさは、学年が上がるにつれてやや高くなる傾向がみられた。一方、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関関係があり、小学校第5学年以上の学年で顕著にみられる傾向にあった。

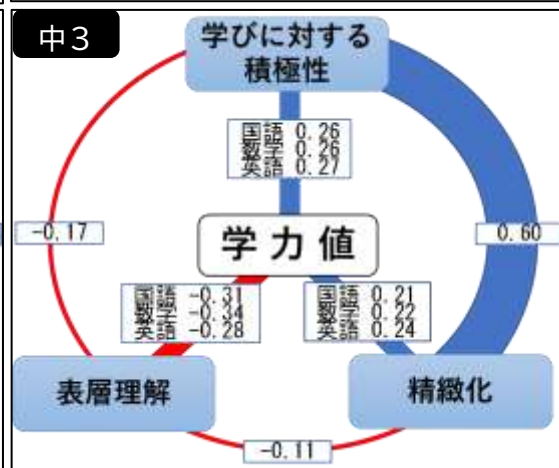
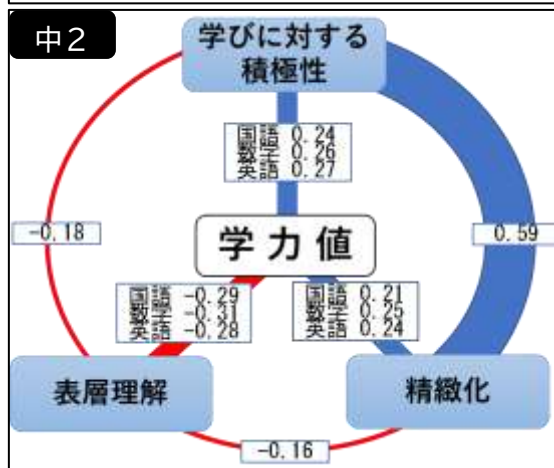
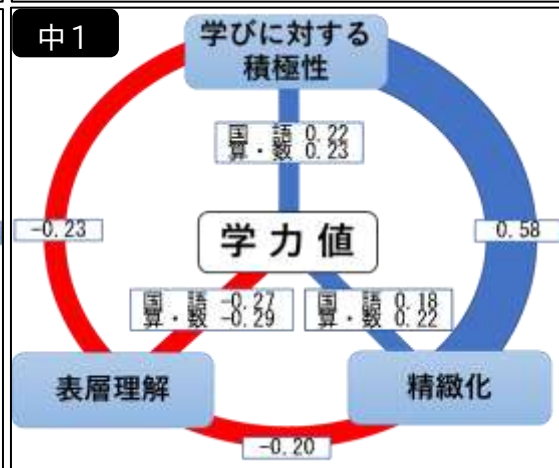
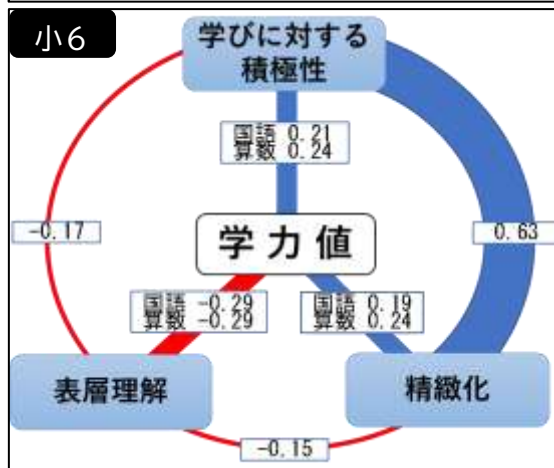
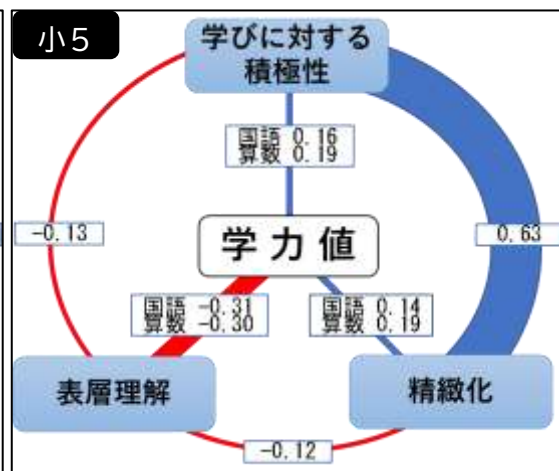
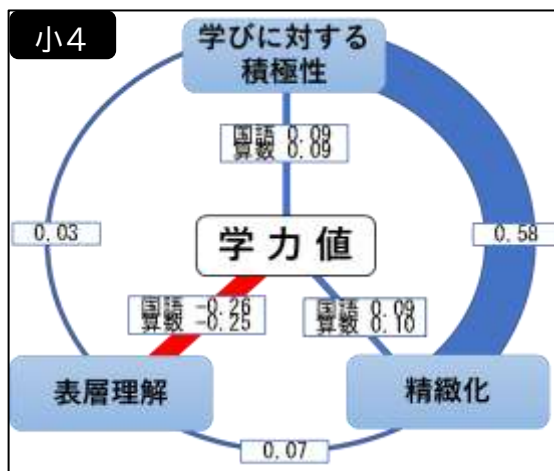
学力ステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする姿勢や、学んだことを関連付けたり、活用したりする学習経験についての質問に対して、肯定的に回答していることが分かった。

数字は相関係数を示す
マイナス表記は負の相関係数を示す
±0.2 以上細線（弱い相関）
±0.4 以上太線（強い相関）

学びに対する積極性：学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする姿勢

精緻化：意味も含めて統合的な理解

表層理解：正解さえ分かればよいという理解

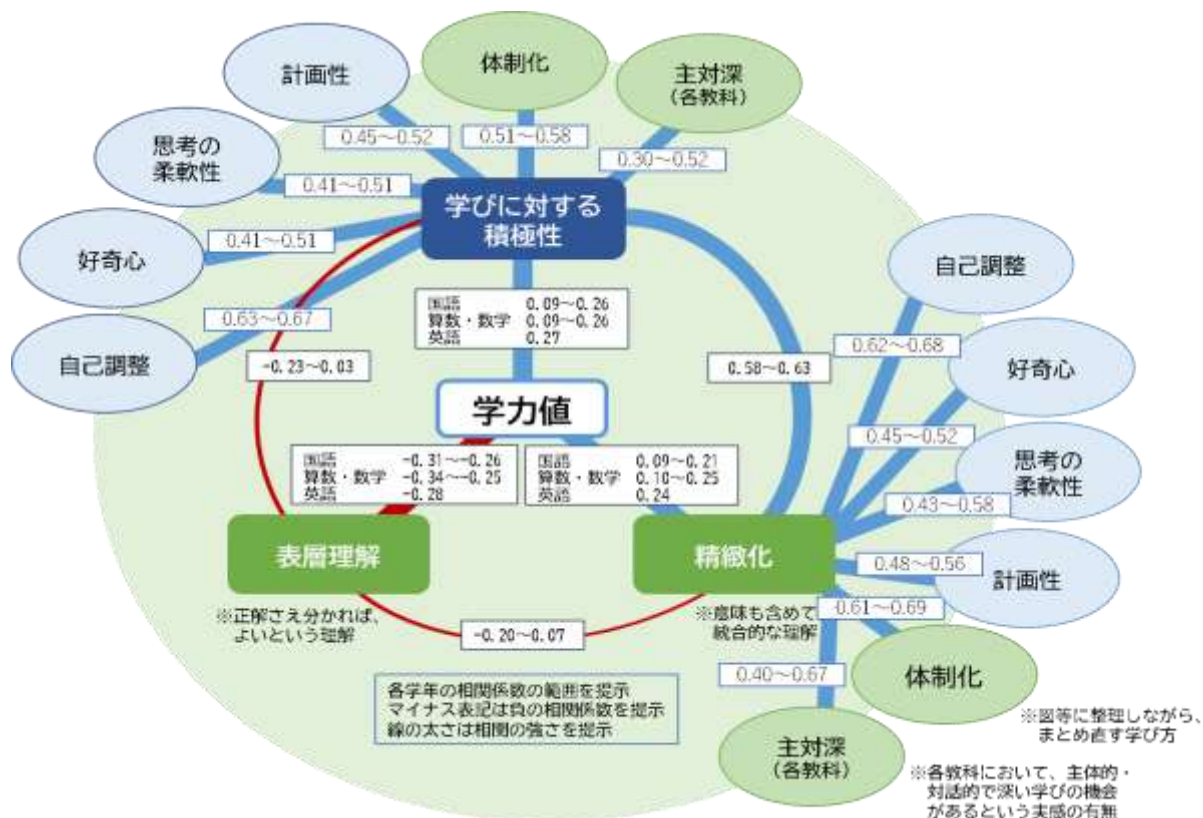


(2) 学力値及び非認知能力、学習方法の相互の相関関係

「学びに対する積極性」という質問項目の回答状況を分析すると、「自己調整」、「好奇心」、「計画性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」との間に相関が見られた。

「精緻化」という質問項目の回答状況を分析すると、「学びに対する積極性」と同じ項目との間に相関が見られた。

「主体的・対話的で深い学び」の項目の結果から、中学校は小学校と比較すると、教科間の「主体的・対話的で深い学び」の相関係数の差が大きい。中学校は小学校と異なり、教科担任制であることから、授業者による授業改善の差が影響を与えていると考えられる。



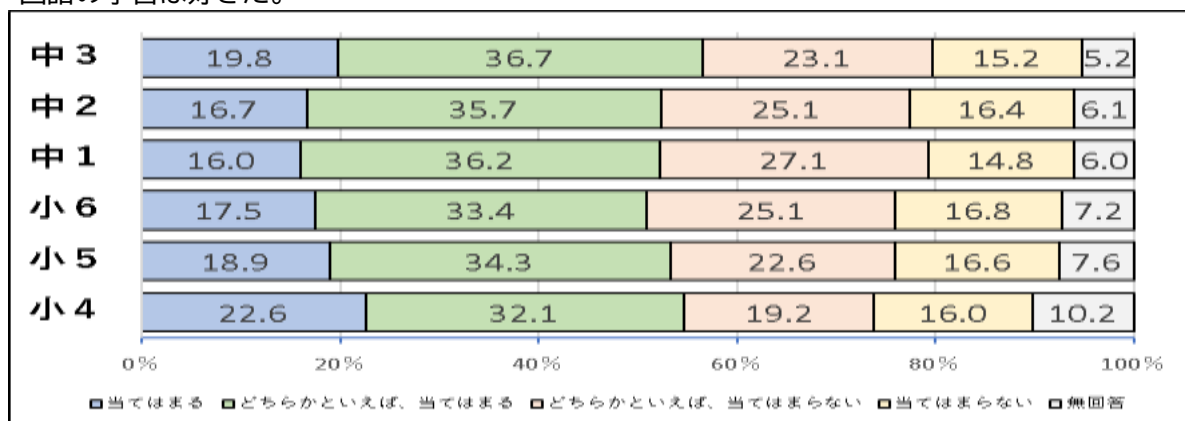
学びに対する積極性	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
自己調整	0.63	0.65	0.67	0.63	0.66	0.67
好奇心	0.49	0.51	0.53	0.45	0.49	0.50
思考の柔軟性	0.51	0.50	0.49	0.41	0.42	0.44
計画性	0.51	0.52	0.49	0.46	0.45	0.46
体制化	0.56	0.56	0.58	0.51	0.51	0.51
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.52	0.51	0.48	0.40	0.37	0.34
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.51	0.51	0.46	0.37	0.35	0.30
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.35	0.33
精緻化	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
自己調整	0.66	0.67	0.68	0.62	0.62	0.64
好奇心	0.51	0.51	0.52	0.45	0.46	0.47
思考の柔軟性	0.58	0.55	0.53	0.45	0.43	0.45
計画性	0.56	0.54	0.53	0.48	0.46	0.48
体制化	0.69	0.68	0.69	0.61	0.61	0.61
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.67	0.64	0.59	0.49	0.45	0.41
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.65	0.63	0.57	0.46	0.44	0.40
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.40	0.40
「主体的・対話的で深い学び」における教科間の相関係数	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
主体的・対話的で深い学び（国語）（算数・数学）	0.77	0.76	0.74	0.62	0.58	0.54
主体的・対話的で深い学び（国語）（英語）					0.62	0.60
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.59	0.58

(3) 質問調査状況(教科の学習が好きだ)

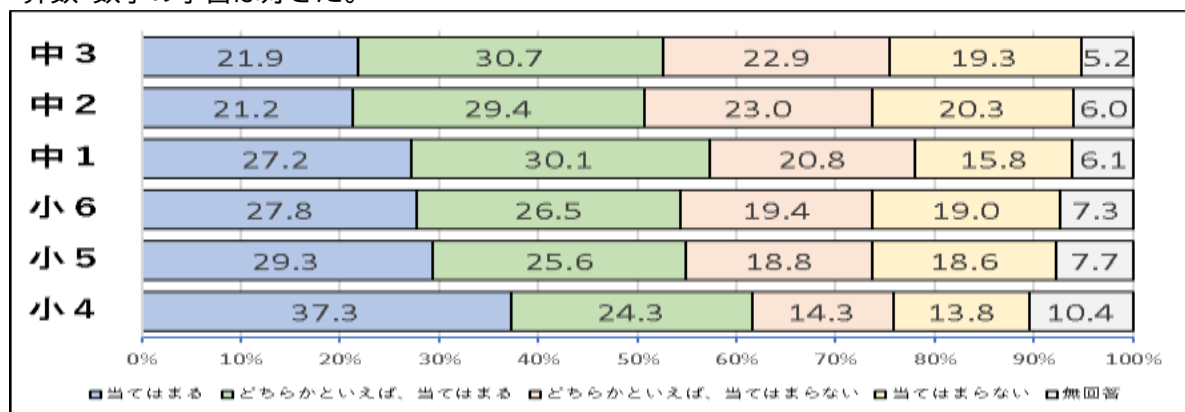
「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を学年毎に見ると、算数・数学及び英語において、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少した。とりわけ、英語においては、その傾向が顕著であった。

「教科の学習が好き」という質問に対して、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と回答する「肯定群」と「どちらかといえば、当てはまる」と「当てはまらない」と回答する「否定群」とに分けて見ていくと、すべての教科において、ステップが高い児童生徒ほど肯定的に回答している割合が多かった。

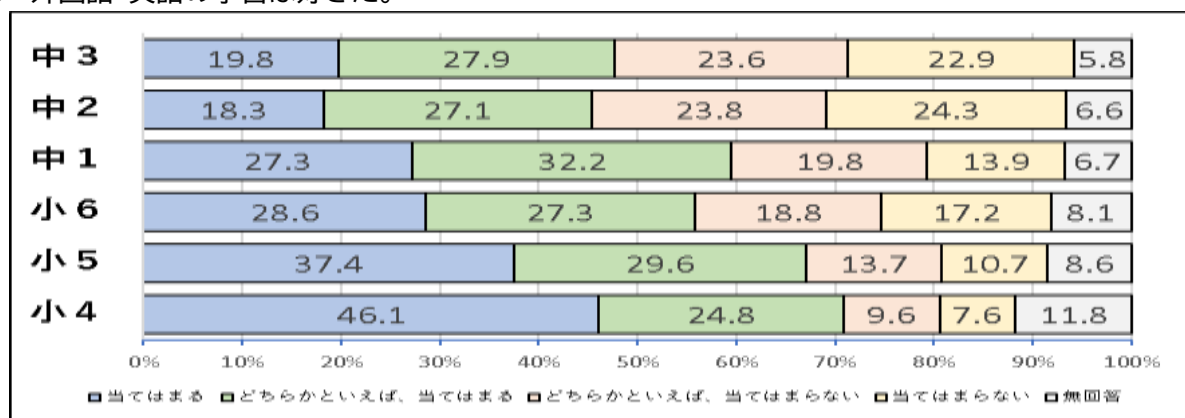
ア 国語の学習は好きだ。



イ 算数・数学の学習は好きだ。



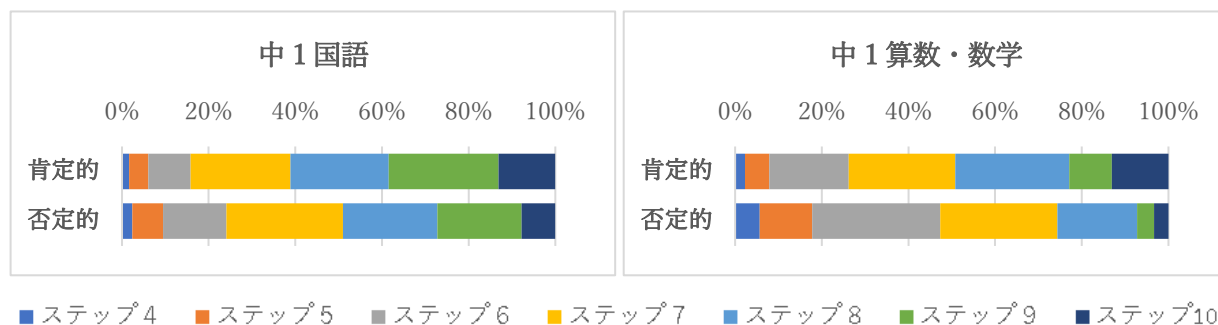
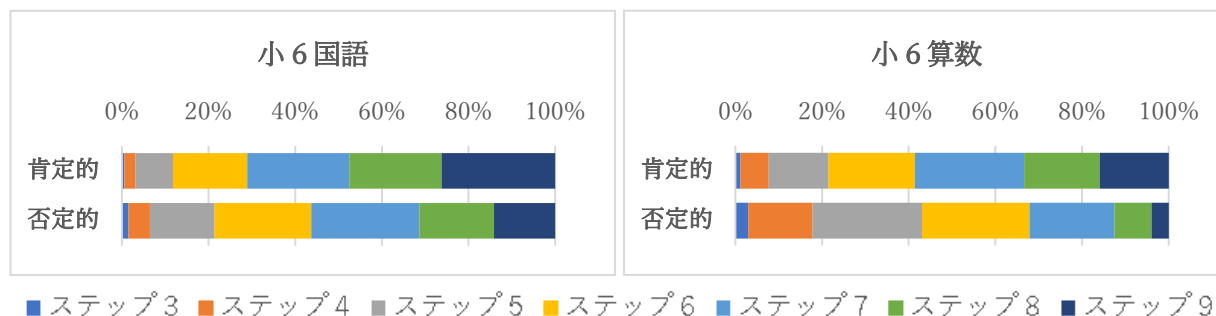
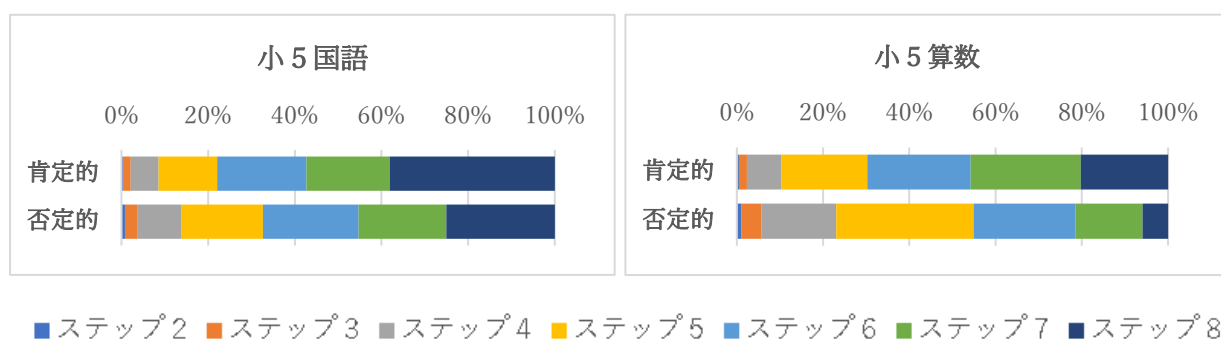
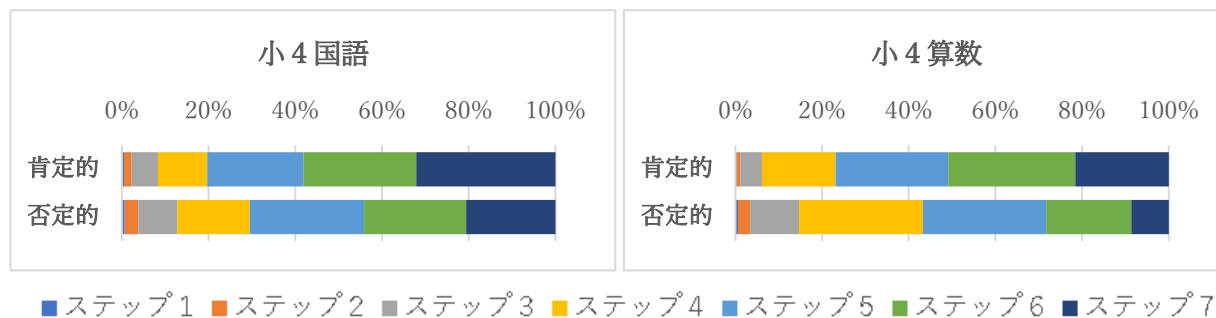
ウ 外国語・英語の学習は好きだ。

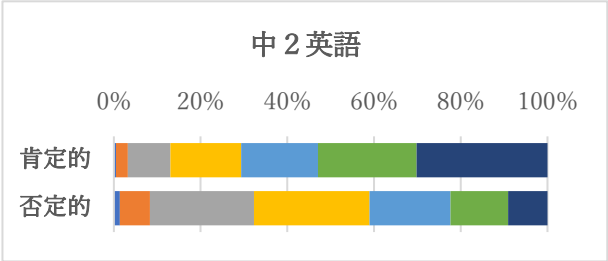
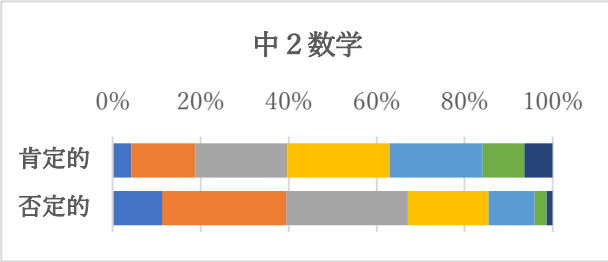
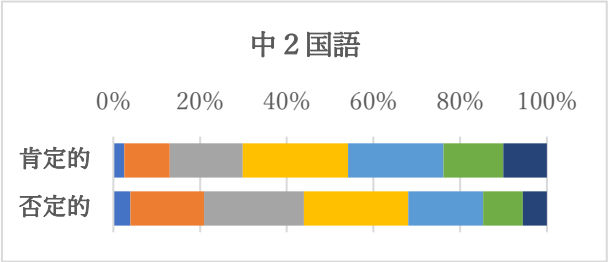


エ 肯定的回答、否定的回答それぞれにおける各学力ステップの割合

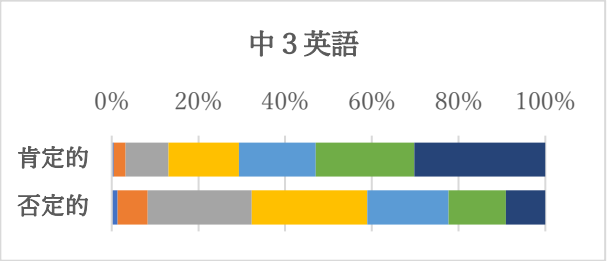
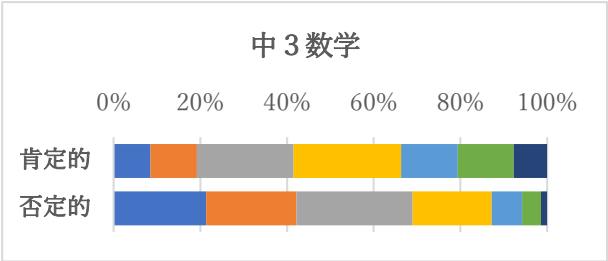
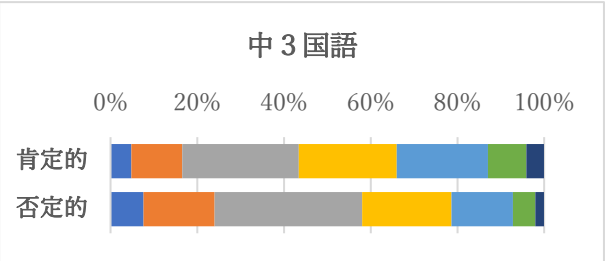
「肯定的」（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）

「否定的」（「どちらかといえば、当てはまらない」＋「当てはまらない」）





■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10 ■ ステップ11



■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10 ■ ステップ11 ■ ステップ12

5 学力ステップが上がった子どもの特徴について

(1) 学力ステップの上昇と本年度の学力値との相関関係

全学年・教科の学力ステップの上昇と学力値において、正の相関関係が見られる。学力値が高くなるにつれて、学力ステップが上がる傾向が見られ、学力値が低くなるにつれて、学力ステップが上がらない傾向が見られる。

こういった傾向があることを十分に踏まえて児童生徒の指導を行う必要がある。

(2) 学力ステップの上昇と質問項目との関係

① 学力ステップが上がった子(算数)×学習状況調査(生活アンケート)の回答をクロス集計した。

次の項目について、学力ステップが上がっている層が上がっていない層に比べて、回答が肯定的になる傾向があった。

- ・家で学校の宿題をしている。(4年→5年)
- ・自分で計画を立てて学習をしている。(4年→5年)
- ・学校では安心して学習することができている。(4年→5年)

② 学力ステップが上がった子(算数)×学習状況調査(非認知能力等)の回答をクロス集計した。

次の項目について、学力ステップが上がっている層が上がっていない層に比べて、回答が肯定的になる傾向があった。

- ・学びに対する積極性(4年→5年)
- ・心理的安全性(4年→5年)
- ・主体的・対話的で深い学び(国語)(4年→5年)
- ・主体的・対話的で深い学び(算数)(4年→5年)

③ 学力ステップが上がった子(数学)×学習状況調査(非認知能力等)の回答をクロス集計した。

次の項目について、学力ステップが上がっている層が上がっていない層に比べて、回答の状況が良い傾向があった。

- ・思考の柔軟性(中1→中2)
- ・リハーサル(中1→中2)
- ・主体的・対話的で深い学び(国語)(中1→中2)

①②③を踏まえて、授業において各教科の指導事項や目標を踏まえた上で、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を行い、授業の中でも非認知能力を発揮させる場面を意図的に設定していくなどの工夫が必要となる。

※②③の概念に対応する質問項目

学びに対する積極性		学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする姿勢
(34)	学んだことをもっと理解するために参考書などをよく読む。	
(35)	分からないところがあると本やインターネット、テレビなどをみたり人に聞いたりして調べる。	
(36)	調べたいことについて納得がいくまで調べる。	

心理的安全性		自分自身に感じる自分の本当らしさ（自分らしさ）を大切にし、発揮できているという感覚
(59)	普段（ふだん）の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。	
(60)	普段（ふだん）の生活の中で、自分がみんなとちがう意見や本当の気持ちを言っても、だれからも責められたり傷つけられたりする心配はない。	
(61)	普段（ふだん）の生活の中で、ミスや失敗をしても、自分の話を聞いてもらえる。	
(62)	普段（ふだん）の生活の中で、起こったトラブルについて、話し合える雰囲気（ふんいき）がある。	

思考の柔軟性		他者の考えを受け止め、自身の意思決定に柔軟に活かそうとする気持ちや態度
(43)	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	
(44)	自分の思いたいことだけでなく、相手の思いたいことも考えながら行動するほうだ。	
(45)	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	

リハーサル		
(66)	学習するときは、教科書や授業のノートやプリントなどの内容を覚えるようにしている。	
(67)	授業の内容について分からないことがあっても、重要なことばや公式だけ覚えるようにしている。	
(68)	学習するときは、ことばをくり返し読んだり書いたりして、覚えるようにしている。	

主体的・対話的で深い学び		
(75)	国語（算数・数学、英語）の授業では、ペアやグループになって自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする機会がある。	
(76)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分やグループの考えを友達に伝えるために工夫して発表する機会がある。	
(77)	国語（算数・数学、英語）の授業では、これまでの経験で得たいろいろな知識を結びつけたり関連づけたりする機会がある。	
(78)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分で疑問に思ったことを自分自身で調べたり、他の人に聞いたりする機会がある。	
(79)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分の思いや考えをもとに答えを見つけ出すような課題に取り組む機会がある。	
(80)	国語（算数・数学、英語）の授業では、授業の最後に自分自身の学習内容をふり返し、学習目標（学習のめあて）が達成できたかどうかを考える機会がある。	

Ⅲ 結果からの考察

1 学びのパスポートの結果から得た授業改善の視点

●教科に関する調査結果との相関関係

教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との間には、正の相関関係があり、その傾向は、小学校第6学年以上の学年においてやや高くなる傾向が見られた。また、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関がみられ、小学校第5学年以上の学年で顕著に見られる傾向にあった。

学カステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとしている。質問や、学んだことを関連付けたり、活用したりしているといった質問に肯定的に回答していることが分かった。また、学カステップが低い児童生徒ほど、解き方が分からなくても答えが合っていればよいといった質問に肯定的に回答していることも分かった。

「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を分析すると、教科間で差はあるが、学カステップとの正の相関関係が見られた。「自己調整」、「学びに対する積極性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」とも正の相関関係が見られた。

●調査結果から示唆されること

教科の学習が好きであることと、主体的な学びにつながりがあることが考えられる。このため、各学校には、児童生徒の「もっと知りたい、探究しよう」とする知的好奇心を活かした授業展開や学習活動の工夫が求められる。具体的には、小学校の低・中学年から、調べたいことや分からないことがある時に、自ら行動できるような学習環境や学習機会を確保し、豊かな学びにつなげていくことが求められる。

また、授業の中で、児童生徒が自分の考えを表現することや他者との対話に価値を見出し、目的意識をもって学習活動に取り組むことが大切である。さらに、既習事項や他教科の学びを活かす等の学習経験を積むことで、教科の魅力や学ぶ意義を、児童生徒が実感し、深い学びにつなげることができる考える。

●学識経験者による分析

学識経験者による、この2年調査結果の分析から、学びに対する積極性、思考の柔軟性、自己調整、主体的・対話的で深い学び（国語）が、学力や他の非認知能力等にも波及効果があることも明らかになってきている。このような項目については、授業の中で教師が意図的に働きかけること、発揮する場面を設定し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐぐんでいく必要がある。来年度以降の調査結果も含め複数年で調査結果を分析していく必要がある。

●学識経験者の指導助言から

3つの資質・能力を育むことを目指すために、児童生徒が主体的に学習に取り組むために大切な視点

1 知的好奇心

- ・ 新奇なものとの出会い…「えっ、何？」
- ・ 既知の経験との適度なずれ…「ズレを縮めたい」

2 自己決定・自己選択

- ・ 意味、意義が分かる活動…「自分の力でやりたい」「自分で選びたい」

3 達成感

- ・ 適度な困難を解決する活動…「できた」「分かった」「なるほど」「諦めなくてよかった」

4 自己有用感

- ・ 自己の成長を実感する場面…「前よりもうまくいった」

5 一体感

- ・ 協働的に学ぶ価値を実感する場面…「みんながいたから」「みんなでやると楽しい」

知的好奇心をくすぐる授業、自己決定の場がある授業を展開する中、達成感、自己有用感、一体感を児童生徒の実感することこそが、次への行動の意欲（主体的に学習に取り組む態度）につながる。

児童生徒が主体的に学習に取り組むことにより、自己調整し学習の方法などを工夫することにより深い学びへとつながる。

2 「学びのパスポート」からの分析～算数・数学科に焦点化して～

(1) 「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」におけるステップの上昇について

「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」において、中学2年、3年のステップが上がった割合が低かった要因は、垂直問題において昨年度よりも正答率が下がった問題が多かったことが考えられる。

同一集団において、中学2年では 5/8、中学3年では 5/10 の問題が昨年度よりも正答率が下がっている。他学年では、垂直問題において正答率が下がった問題はない。それぞれの学年における各領域の正答率は年度が変わっても大きな変化はないので、各学年の出題範囲における弱い領域を見ることができる。

中学2年、3年では、小学校よりも正答率が 50%未満の領域は少ない。このことから、学年自体の正答率の低さよりも、垂直問題における正答率の低下が、ステップが上がった割合が低かった大きな要因であると考えられる。ただ、垂直問題の正答率を分析すると、下学年で高い問題が必ずしも正答率が低いとは限らないので、ステップが上がった生徒の割合が低いから、その学年の学力が低いというわけではない。

また、垂直問題を出題している領域や問題の偏り、学年の特性もあるので、この1回の結果だけでの判断はできない。

※垂直問題…複数の学年で共通して出題されている問題

垂直問題の比較（京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～）令和5年度と令和6年度
現小学校第4学年

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 （同一集団での比較） 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が 50 未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式					61.3	63.2
図形					51.7	49.4
変化と関係					60.7	60.3
データの活用					59.8	65.5

現小学校第5学年（+60.0）

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 （同一集団での比較） 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が 50 未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式	4	0	61.3	59.2	57.9	59.2
図形	1	0	51.7	44.7	48.2	44.7
変化と関係	2	0	60.7	47.1	48.1	47.1
データの活用	1	0	59.8	76.3	74.3	76.3

▼ 立体の展開図、面積の単位

▼ 時刻表

現小学校第6学年（+63.9）

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 (同一集団での比較) 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が50未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式	3	0	57.9	60.1	60.1	60.1
図形	2	0	48.2	62.2	62.6	62.2
変化と関係	2	0	48.1	42.7	43.3	42.7
データの活用	1	0	74.3	38.1	39.9	38.1

▼ グラフを選択して判断、帯グラフの比較

現中学校第1学年（+67.5）

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 (同一集団での比較) 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が50未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式	5	0	60.1	63.6	66.6	63.6
図形	1	0	62.6	39.5	40.1	39.5
変化と関係	2	0	43.3	57.8	61.7	57.8
データの活用	1	0	39.9	65.4	68.3	65.4

▼ 周の長さ、およその面積、対称な図形、縮図

現中学校第2学年（+46.3）

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 (同一集団での比較) 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が50未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式	3	3	66.6	53.3	57.7	53.3
図形	2	0	40.1	46.9	49.9	46.9
変化と関係	2	2	61.7	55.5	60.1	55.5
データの活用	1	0	68.3	49.5	49.6	49.5

▼ 一方を基準として比較、仮平均、分数で割った数の大小

▼ 範囲、相対度数、ヒストグラムから読み取る

現中学校第3学年（+47.0）

	昨年度からの 垂直問題	正答率が 下がった 問題	平均正答率 (同一集団での比較) 昨年度より平均正答率が 10ポイント以上下がった領域		平均正答率の比較 平均正答率が50未満の領域	
			令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
数と式	3	2	57.7	60.3	64.5	60.3
図形	3	2	49.9	60.5	64.4	60.5
変化と関係	0	0	60.1	54.6	55.7	54.6
データの活用	4	1	49.6	46.2	47.4	46.2

(2) 各学年の正答率が50%未満の領域

小5出題	図形（小4：長方形を組み合わせた図形の面積、展開図、面積の単位） 変化と関係（小3：時刻表、小4：割合、変わり方）
小6出題	変化と関係（小5：速さ、割合、単位量あたりの大きさ） データの活用（小5：割合のグラフ）
中1出題	図形（小6：プログラミング、円の周の長さ、およその面積、 対称な図形、立体の体積、縮図）
中2出題	図形（小6：およその面積、中1：回転移動、作図、おうぎ形） データの活用（中1：範囲、相対度数、累積度数、ヒストグラム）
中3出題	データの活用（中1：相対度数、累積度数、ヒストグラム 中2：確率、箱ひげ図）

(3) 正答率の逆転現象が起きている問題

下学年の方が正答率が高くなった問題に共通していることは、覚えることでその場をやり過ごせるという点である。「なぜそうなるのか」という疑問をもたずに、決められたこととして指導し、深い理解に至らないまま次の学習内容へと進んでしまい、結果的に時間の経過とともに記憶が薄れていき、「解けない」につながっていると思われる。

【問題の例】

①小6と中1・2で、問題は違うが同様の出題内容で、逆転現象が起こっている問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
		R 6小6	
示された図を基に、白いテープの長さを求める式を選ぶ	小数の乗法及び除法について理解している	56.1%	
問題の概要	出題の趣旨	正答率	
		R 6中1	R 6中2
文章を読み、一方の値を基準としてもう一方の値を求める	分数の除法の計算の仕方を考え、その計算ができる	31.9%	28.5%

②面積の学習後、円の周の長さと同面積を混同する誤答が増える問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
		R 6小6	R 6中1
与えられた図形について、周りの長さを求めるために必要な式の組み合わせとして正しいものを選ぶ	与えられた図形の周りの長さを求めることができる	52.0%	39.8%

③逆転現象が起こっている問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
		R 6中1	R 6中2
ヒストグラムを読み取り、累積度数として正しいものを選ぶ	データの分布に関する用語について理解している	48.1%	43.0%

④逆転現象はないが、同様の課題が考えられる問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率			
		R 5小6	R 6小6	R 5中1	R 6中1
道のりと速さからかかる時間を求める	速さの意味について理解し、時間を求めることができる	18.6%	16.1%	26.9%	23.5%

⑤文字を使った式に関する問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率
文章を読み、その関係を表した式として適切なものを選ぶ	数量を□や△などを用いて表し、その関係を式に表すことができる	R 6小5
		84.7%

問題の概要	出題の趣旨	正答率
文章を読み、数量の関係を正しく式に表したものを選ぶ	乗法が用いられる場面を□を用いた式で表すことができる	R 6小5
		74.9%

問題の概要	出題の趣旨	正答率
与えられた場面について、数量の関係を表した式として正しいものを選ぶ	□や△などの記号を用いて、数量の関係を一般的な式に表すことができる	R 6小6
		60.3%

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
文字を用いた数量の関係を表す式について、適切なものを選ぶ	数量の関係を文字を用いて式に表すことができる	R 6中1	R 6中2
		54.1%	57.1%

(4) 京都府の算数・数学の課題

数と式	四則計算は補充学習等の甲斐もあってある程度の力がついている。文字式への移行に課題があるように感じる。それまでできていたことが、文字式を用いて表すと困難になる。
図形	どの学年でも課題である。操作等を通した具体から抽象への移行がうまくいっていないのではないかと考える。
関数	図形と同じく、どの学年でも課題がある。特に小学校の学習内容の割合が課題であるように思う。中学校で学習する関数は、小6の比例・反比例からの段階があることと、中学校の学習内容の中で一番ネックになる一次関数をふくむことから教師側も意識して指導しているのではないかと考える。
データの活用	データから何を読みとれるのかを説明する問題に課題がある。また、小6で代表値などの用語を学習するが、中学校でそれに同様の用語を学習していくと混同しているように感じる。

●算数・数学に共通した課題

- ・説明する問題の場合、無解答率は全国と比べて低いが、聞かれていることに対して正しく解答ができない。
- ・複数のことを問われた場合、一方にしか解答していないなど解答が不十分なことがある。
- ・用語、公式等の理解が不十分である。使えるが、意味は分かっていない。

●数学の課題

- ・文字式の問題・・・□や○から文字に変わると、正答率が落ちる。
- ・具体から抽象になることによる戸惑いも考えられるが、文字式に対する拒否感も考えられる。

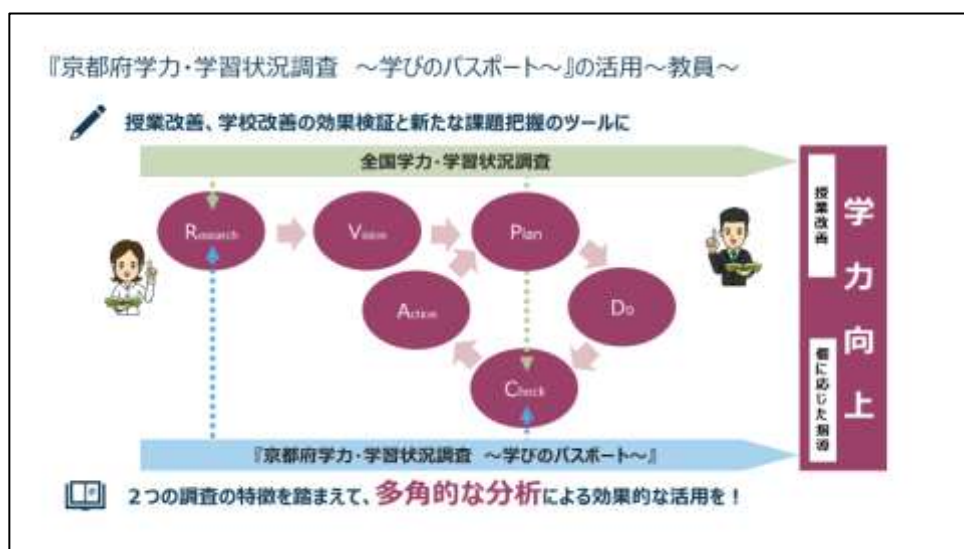
(5) 算数・数学の授業改善への提案

- ・教員が、育成を目指す資質・能力を明確にした上で、その資質・能力を身に付けることができたかをノートの記事など、児童生徒の事実で判断することが大切である。
- ・児童生徒が正しい答えや正しい式だけに関心を持つのではなく、正しい答えや正しい式を導く考え方に関心を持つようにするためには、教員自身が正しい答えや正しい式を導く考え方に関心を持つことが大切である。
- ・授業では、教員はすべてを児童生徒に委ねるのではなく、基本的な概念や見方・考え方を伝えていくことが必要である。
- ・子どもたちの学びがどのようにつながっていくのか、校種を越え、見通しをもって指導することが必要である。

Ⅳ 調査結果の活用

～調査結果を活用した学校のRV-PDCAサイクルの確立～

本調査は、各学校で分析を行い、授業改善や個に応じた指導等に活用することが重要です。ここでは、各学校における分析・活用の手順例をお示しします。



【1 学校名等】※1～3は、結果返却されるまでに記載する。

学校名								校長名	
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	児童生徒数	名
学級数									
担当教員名									

※可能であれば中学校区で共通した「目指す子ども像」も記入してください。

① 目指す子ども像	
② 目指す子ども像に対する現状と課題	
③ 目指す子ども像に達するための仮説	

②目指す子どもの姿に達するための仮説を構築

【2 具体的な取組内容】

※仮説を踏まえて、学校として、いつ、何に取り組むのかを記載してください。
 ※本資料作成のために新たに取組を増やしていただく必要はありません。これまで行ってきた取組を、本調査の目的の視点から再度捉え直していただくことを大切にしてください。

③仮説を踏まえた具体的な取組の明確化

【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】※3は、すべての枠を埋める必要はありません。

学年	質問番号	質問項目	概念	備考

④仮説及び成果を検証する質問項目の焦点化

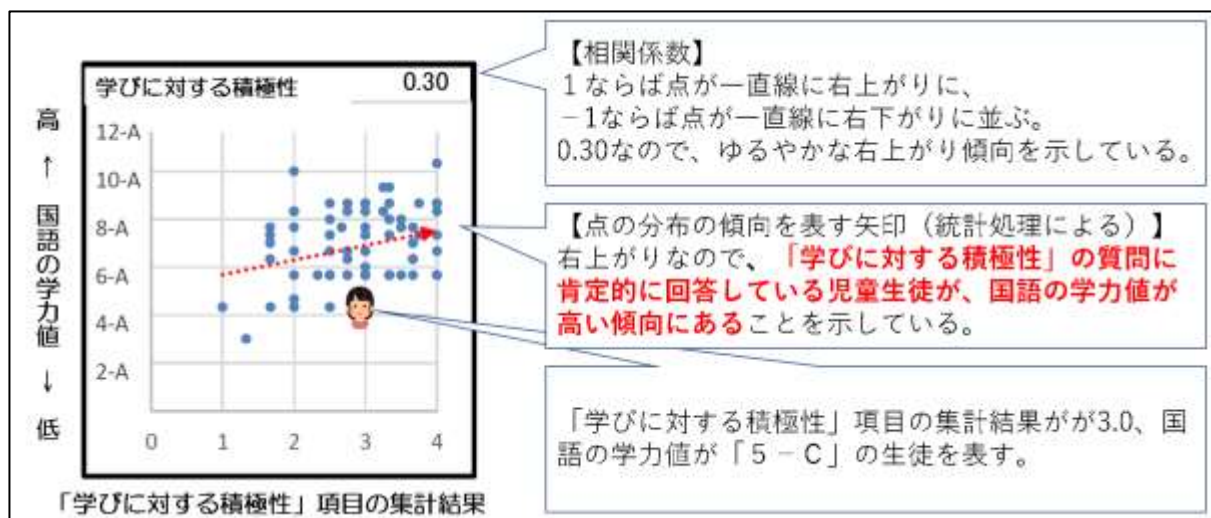
2 結果データを分析（Check）し、

具体的な手立て（Action）を計画し実施

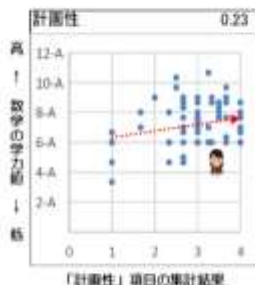
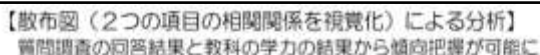
- （１）結果データが返却されたら目指す子どもの姿をもとに分析したいデータを焦点化する。
- （２）散布図等を活用し、一人一人及び集団の状況分析をする。

留意点

- ①非認知能力のすべてを映し出すものではないということ
- ②結果データのみで判断せず、観察との両面から判断すること
- ③あくまで相関関係を示すものであり、因果関係を示すものではないということ



ていく。



この生徒に注目してみましょう。

データからは、どんなことが分かりますか。

- 数学の学力値は低い
- 計画性の管理項目には肯定的に回答

「計画性」の項目を確認し、
どんな生徒が想像してみてください。

- ・計画的に学習しているが、計画の立て方に問題があり、学力に結び付いていないのではないかと？
- ・計画的に学習していると本人は思っているが、実際には計画的に学習できていないのではないかと。

Aさんですね。最近頑張っても結果がでないと悩んでいます。個人カレッジで他の結果を確認すると、「学びに対する積極性」が低いですね。確かに、普段の様子を見ると、計画的を立てて頑張っていますが、分からないことがあっても、どうしていいかわからず止まってしまう場面がみられます。「分からないときにどうしたらいいか」を話し合ってみようと思います。

最後は必ず、児童生徒の普段の様子と照らし合わせて手立てを考えることが重要

【4 分析1】※【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】を参照して記載すること

学年	概念	散布図から読み取れること	菅段の様子を踏まえての分析
学年	項目	散布図以外から読み取れること	菅段の様子を踏まえての分析

【5 分析2】※【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】以外で気づいたこと
※「任意の二項目」から気づいたことを記載する場合は、「項目1」×「項目2」と記載すること

学年	概念	散布図から読み取れること	菅段の様子を踏まえての分析
学年	項目	散布図以外から読み取れること	菅段の様子を踏まえての分析

※学年及び内容は、すべての科と組の必要に応じて記入する。

【6 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

②個に応じた指導・支援及び集団としての指導・支援のどちらも記述

集団としての指導・支援方法

【7 仮説の修正】

※分析結果を踏まえ、仮説の修正が必要であればここに記載してください。

③分析結果を踏まえた仮説の修正

【8 具体的な取組内容の修正】

※【7 仮説の修正】を踏まえ、具体的な取組内容の修正が必要であればここに記載してください。

④学校の具体的な取組内容を修正

(4) 児童生徒の振り返りを実施する。

①「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～振り返り用紙」

の様式等を活用

②自身の学びの様子や成長等、調査結果を振り返る場面を設定

③児童生徒自身が強みと課題を知り、自身の状況を把握し、次への展

望を持ち、学び続ける力をはぐくむことができるよう、指導・支援

『京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～』の結果分析～児童生徒～

 児童生徒に、結果を振り返る場面の設定を

表面

裏面

結果を振り返り、自己を理解し自ら学び続けられるように



3 年度末に、今年度の学びの変容を再度「Research」し、
次年度の「Vision」を共有し、「Plan」を立案

【9 児童生徒の変容（普段の様子から）】

※【6 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】で計画した指導・支援を行った結果、児童にどのような変容が見られたかを記載してください。

①指導によって、児童生徒がどのように変容したのかを記述

【10 来年度の構想】

②来年度の構想を記述したのかを記述



次年度当初に②で立てた構想に基づき、
「学校改善プラン」等を作成

4 各研修会の内容

(1) 令和6年度第1回「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」に係る分析・活用研修会～

対象：各学校教務主任及び研究主任等（複数名での視聴を推奨）



結果データの見方・捉え方や 分析及び仮説の構築の方法を理解し、学校改善プランの作成について見通しを持つことができる。

本日のねらい

「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」に係る結果データに基づき、自校の授業改善案を作成し、実践に活かす。

答えが用意されていない「問い」に対して

分析結果(データ&観察)を基にした最適な手立てを考える

本日の流れ

0 開会

1 【説明・演習】

学校改善プランの作成方法

2

【実践発表】

綾部市立綾部中学校

3

【研究協議】

校内研修の実施に向けて

4 事務連絡・閉会



(2) 令和6年度第2回「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」に係る分析・活用
研修会～

対象：各学校の国語、算数・数学、英語のいずれかを担当する教員



「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」に係る結果データに基づき、自校の授業改善案を作成し、実践に活かす。

学びのパスポートの効果的な活用

本研修の目的

「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」に係る結果データに基づき、自校の授業改善案を作成し、実践に活かす。



学校改善プランの内容を、授業改善に反映する。

結果データに基づいた授業構想

結果データを活用するとは？

【データを見る段階】

- ・結果データの見方を理解する。



Aさんの個人カルテについて、養護教諭も含め、関わる先生方みなで見方を確認しました。計画性の質問に否定的で、学力も低い状態です。

【データを分析する段階】

- ・結果データを取捨選択し、課題を解決するために必要な情報を得る。



質問項目を確認すると、「しよ材料は多いが、いことの順番を決めて取り組んでいる方だ」、「はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ。」等があります。普段から全体を見ることが難しく、また、集中するとやめられない、目標やゴールが意識できない様子が見られます。ゴールを自分で設定できる力を育成する必要があると考えます。

【データを活用する段階】

- ・分析結果をもとに、具体的な指導・支援を計画し、実際に行う。



どの授業でも、最初に今日のゴールを見童生徒と確認します。また、今日することや指示を黒板に明示し、その時間の流れを視覚的に確認することができるようになります。さらに、集中すると力を発揮するよさを生かし、スモールステップで課題を与えるよう工夫します。

(3) 令和6年度教育データ・サイエンティスト育成研修

1年間の予定

【研修内容】

(1) 第1回研修会：令和6年6月25日(火)PM

ア 分析手順

イ 分析演習の実施

ウ 学校改善プランの作成方法及び交流

(2) 第2回研修会：令和6年9月3日(火)PM

ア 学校改善プランの交流(分析事例及び分析内容について)

イ 学校改善プランの加筆修正

(3) 第3回研修会：令和7年2月13日(金)

ア 学校改善プランに基づく実践交流

イ 次年度に向けての協議

教育データ・サイエンティストとは

子どもの学習状況や学習環境などの多様なデータを分析し、最適な指導方法を見付けたり、学習環境を構築したりする能力をもった人材

データを活用し、

授業や学校を**変革**させる人材のこと

教育データ・サイエンティストの役割

○「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」を活用したRV-PDCAサイクルを確立し、学校及び中学校区の学校改善プランを作成

○先んじて学び、各地域の研修等で分析・活用のアドバイスができるようになる。

教育データ・サイエンティストの役割

○「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」を活用したRV-PDCAサイクルを確立し、学校及び中学校区の学校改善プランを作成する。

『京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～』の活用～教員～

授業改善、学校改善の効果検証と新たな課題把握のツールに



『京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～』

2つの調査の特徴を活かして、多角的な分析による効果的な活用を！

教育データ・サイエンティストの役割



5 実践事例

令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～研究校の実践について紹介します。

- 1 綾部市立綾部中学校ブロック
- 2 宮津市立栗田中学校ブロック
- 3 向日市立西ノ岡中学校ブロック
- 4 城陽市立西城陽中学校ブロック
- 5 井手町立泉ヶ丘中学校ブロック
- 6 南丹市立園部中学校ブロック

綾部市立綾部中学校ブロック

～中学校区で目指す子ども像～

自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成

事後研「自己調整を働かせながら、力が付いていたか」

実践交流会「幼・小・中の実践を紹介」



研究の経過 ブロック研を「学力向上」に特化

- ① 年3回のブロック研究会を「学力向上」に焦点を当て、非認知能力「自己調整」を切り口とした研究を実施
- ② 「自己調整」を意識した授業公開
- ③ 「自己調整」に焦点をあてた事後研究会
- ④ 教員の主体性を引き出す「分科会」の設定
- ⑤ 3回のブロック研以外に互いの校内研究会に参加

教員が自ら分科会
を選択して参加

小中の風通し
をよくする



ブロックの成果と課題

(成果)

- 中学校区で目指す子ども像を再確認することができた。(課題とゴールの共有)
- 各校で「自己調整」を切り口とした学びのパスポートの結果分析や授業研究会を開催することができた。(小中で授業を見合う機会の増加)
- 校種や教科、業務内容の異なる教員同士でも、「自己調整」を切り口に協議することができた。

(課題)

- 2年目を迎え、各校の研究は進んでいるが、その研究内容を全体場で共有することが十分できていない。
- 「学力向上」に特化した3年間の後も、持続可能な研究にしていける必要がある。



分科会「体育科における3つのJ」

分科会「3つのJを働かせる給食time」

よりよい問題解決ができる児童の育成
綾部市立吉美小学校

20250129 5年生 公開授業



端末を活用して
問題解決の「見通し」を共有
(※教師は整理)

学び方を自己決定

友達と

児童が主体的に学ぶ授業づくり
綾部市立綾部小学校

「自己選択・自己決定・自己調整（3つのJ）」で学びを
自分ごとにする生徒の育成 綾部市立綾部中学校



①全員が実践や学びをアウトプットする
校長先生も実践発表をしています！

②全員が校内研修の「運営者」として参加

③1人1人が「自分ごと」になる研修

④各研修の学びを「見える化」する

自らの学びを最適化する児童の育成
綾部市立中筋小学校



授業研究会の様子
(事前研究会・事後研究会)



【事後研 グループ協議の視点】

- ・課題を自分事と捉えることができる場面の工夫ができてきているか
- ・全員がめあてを達成できる授業展開になっていたか
- ・本時で考えている自己調整の場面は、目標を達成するために効果的であったか

授業部

自己調整能力を生かした授業づくり

今年の中筋小学校では「自分に合った学習の仕方」を大事にしています。4年生では、体育科の「跳び箱」の学習で、自分の課題を見つけて改善策を考える→課題の解決のために繰り返し練習する……という学びのサイクルを通して、開脚跳びや台上前転などの技の技能だけでなく、自己調整力も鍛えています。

【動機付け】

学習意欲を高める
内発的動機付け

「この単元のゴール」

とび箱運動「跳び箱の跳び」

単元のめあて

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

「この単元のゴール」

とび箱運動「跳び箱の跳び」

単元のめあて

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

「この単元のゴール」

とび箱運動「跳び箱の跳び」

単元のめあて

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

【学習方略】

効果的に学習するための
方法や工夫

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

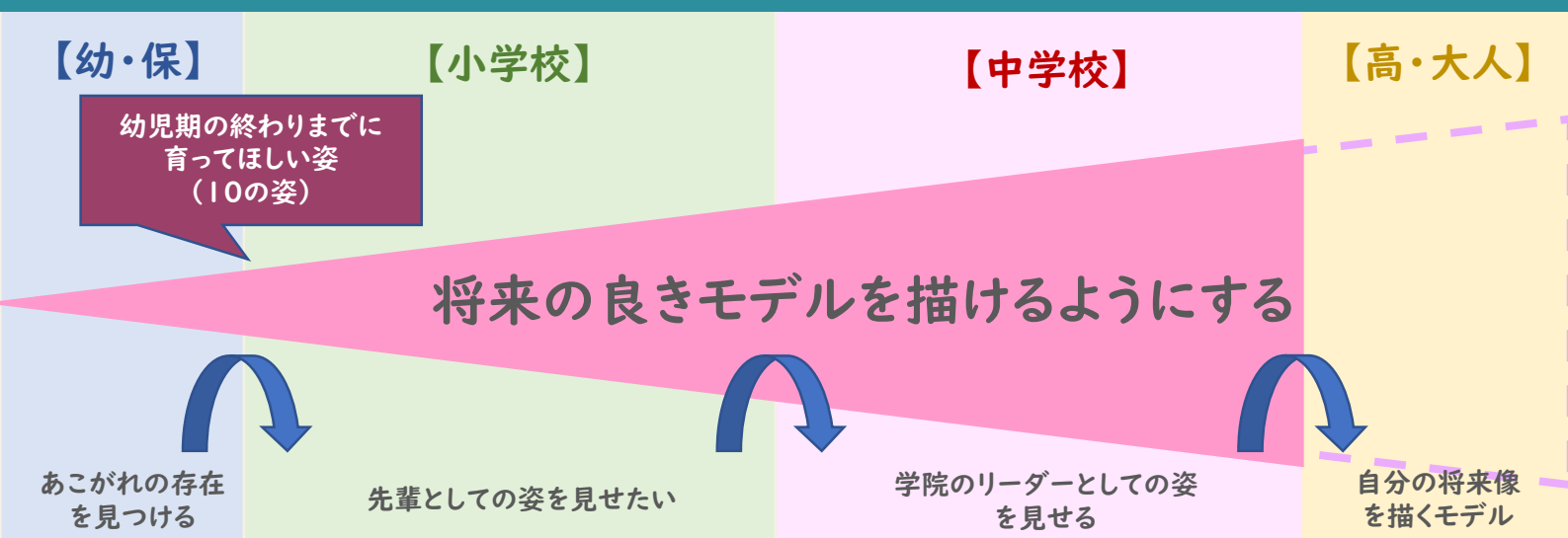
自分の目標を設定して達成できるようにする。

自分の目標を設定して達成できるようにする。

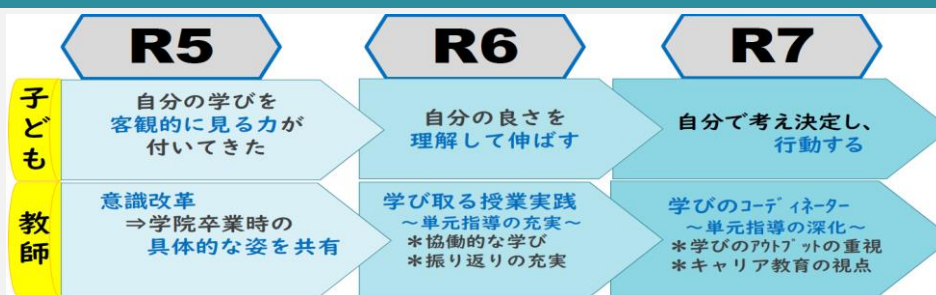
自分の目標を設定して達成できるようにする。

宮津市立栗田中学校ブロック～教育目標～ 未来を生きる心身ともにたくましい 幼児・児童・生徒の育成

栗田学院の目指す姿：中学卒業時をゴールとして、10年間を見通した教育



「主体性・挑戦意欲の高まる指導の研究」



子どもが興味をもち、
自ら学び取る授業

自分の良さを
理解して伸ばす

教員も校種を越えて
学び合う

学びのパスポート
～自分の学びの様子と成長を振り返ろう～



小・中学校とも年3回、
自分の学習方法と
非認知能力を振り返る



教員も校種を越えて学び合う



学び合う中で
主体的に伝える力を
身に付ける

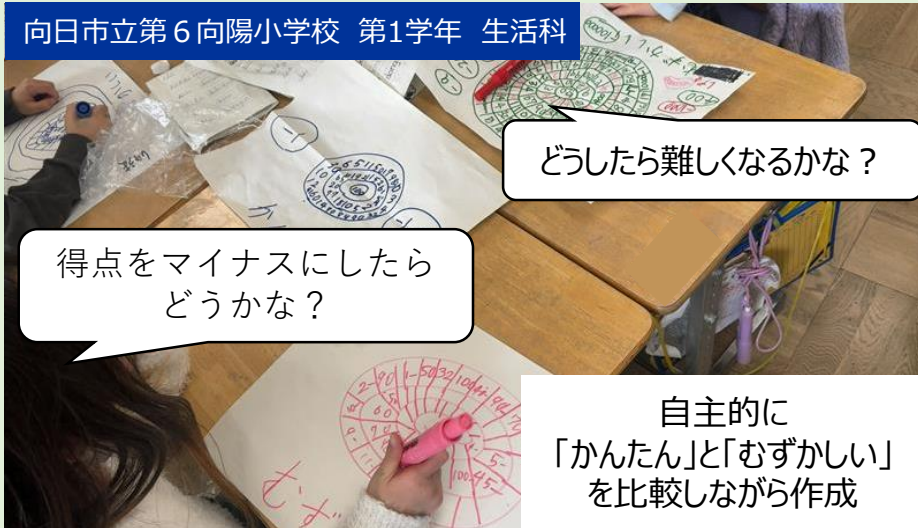
学院が一体となり、子どもも教員も学び合う

向日市立西ノ岡中学校ブロック～中学校区で目指す子ども像～

人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども 自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども

目指す子ども像の実現を目指して～教師の意図を明確に～

向日市立第6向陽小学校 第1学年 生活科



自主的に
「かんたん」と「むずかしい」
を比較しながら作成

学校の研究テーマに沿って
指導案への記載内容を検討

探究アイ

○6年生にも楽しいと感じてもらうためには、どうすればよいかを考えさせ、遊び方も考えさせる。

大切にしたい児童のつぶやき

「6年生だから、難しくしたい」

「レベルアップしたい」

向日市立第2向陽小学校 第5学年 算数

9 本時の目標

数量の関係をもとに、単位とするほうの量をきめ、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。
(思考・判断・表現)

身に付けてきた力

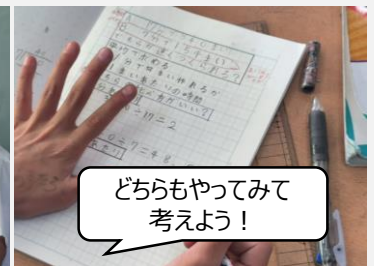
- ・四捨五入など概数の計算ができる。
- ・商を概数で表す場合のわり算の計算ができる。
- ・一つの大きさはどうなるのか、平均を求めることができる。

身に付けさせる力

・混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して、単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

発展させる力

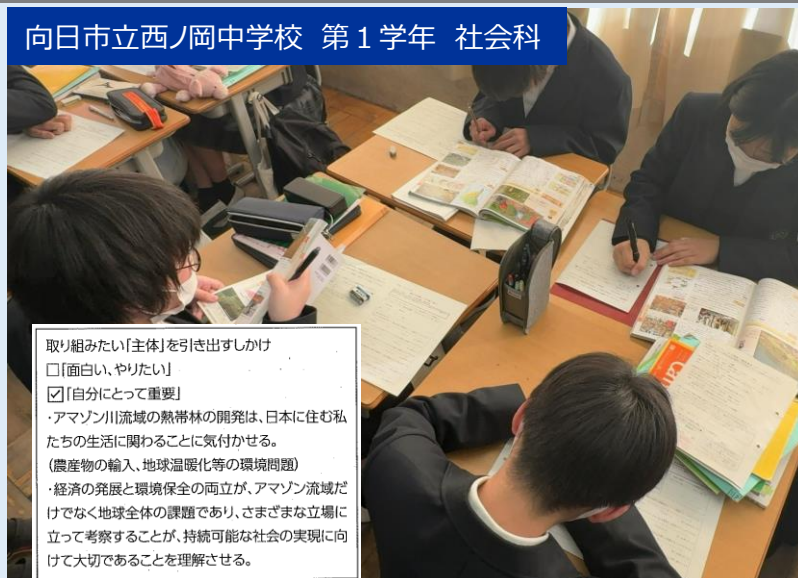
・1時間でどれだけ進むのかなど、時速や分速のような「速さ」に関する問題を解決することを通して、速さ、道のり、時間の関係の理解を深める。



	質問紙の項目	本時
自己調整	(30) 自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直す方だ。	学級の見解から、どちらを基準量にするべきか理解し、適用題で、自分に合った方法を選び、その理由を説明している。

向日市立西ノ岡中学校ブロック合同授業研究会 参観した授業の意見交換 + 「自己調整」に関する授業実践の交流

向日市立西ノ岡中学校 第1学年 社会科



校種・学校間の壁を越えて同じ話題で協議～他人事から中学校ブロックとしての実践に!!～

城陽市立西城陽中学校ブロック

心理的安全性と学び合いを、2小1中の中学校区で共通の軸に

中学校ブロックの方針

中学校ブロックの目指す子ども像

1. 互いに認め合い、自ら行動する、自ら考え学び合う子
2. 人と人とのつながりを大事にし、お互いを思いやりながら高め合える関係性を築き、社会の中で生きる力をもった子

自分で考える力、自分で学ぶ力の育成

変化の激しい社会の中で生きる力の育成

学び合い

ICTの効果的な活用

人と人とのつながり

お互いを思いやりながら高め合う関係性

基盤となるもの

心理的安全性

西城陽中学校ブロック共通非認知能力

研究を通して小中学校の日々の実践を共有し、9年間を見通した変化の激しい社会を生き抜く子どもの育成に努めていく。



西城陽中学校ブロックの特徴

ブロック内で方向性（ベクトル）を揃える

- 教科を国語、算数・数学、外国語に限らず、また、学年も4年生以上に限らず、学校の取組として、授業改善に取り組む。
- 中学校ブロック研究授業では、校種・教科を越えて互いの授業を見合う。
- どこで、どの非認知能力を発揮させながら、教科の力を付けていくのか、「授業デザイン」の中に明記。



教科の壁を越えて、教員全員が自分の授業について振り返り、非認知能力を位置付けた授業改善に取り組む。



城陽市立
西城陽中学校

校内研修で「同僚性」の育成に着手。
学び合いの活性化に向けて情報共有と探究的な課題の創造を目指す。



城陽市立
寺田西小学校

授業改善の視点

「主体的・対話的で深い学びの実現」
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

心理的安全性のある学級作り、授業作りを基盤として

1 質の高い「発問」（問い）の設定

学ぶ意義・目的をはっきりとさせ主体的な学びにつなげる。

2 児童主体の活動

教師が教え込む授業から子どもたちによる協働的な学びの授業へ

3 ICTの効果的な活用

※使用頻度が高ければ学力が上がるというものではない。
どのような活用が本時のねらいの達成のために効果的かを吟味して
単元・授業づくりをしていくことが大切。

寺田西学び合いスタンダード



授業を構造的に可視化

授業の中で、「学び合い」がいかに効果的に働くか、確認しながら授業改善を図るように校内で共有。

城陽市立
今池小学校

IMAIKE 研推便り

2024.12

総合×事後研

重点教部

事後研究会 I

① 探究的な学習の実践について

先生方がパレトに打ち込んでくださったものを Bingで読みこみ、要点をまとめてみました！

探究的な活動がある授業の実践について、以下の要点をまとめました：

1. 思考ツールの活用
2. 思考ツールの活用
3. 思考ツールの活用
4. 思考ツールの活用
5. 思考ツールの活用

ワードクラウドに
語らばきと
ウェビングマップ
一巻の結果に！

② 単元の修正

単元名	単元目標	学習内容	評価方法
算数	数と計算	数の性質、計算の規則	課題研究、テスト
国語	読解力	文章の理解、読解のスキル	読解テスト、発表
理科	観察力	実験の計画、観察の記録	実験レポート、発表
社会	問題解決力	社会問題の分析、解決策の提案	グループワーク、発表

城陽市立
今池小学校の
「研究推進たより」

「探究」を位置付けた授業改善に向けて、丁寧な振り返り

- 単元（授業）を終えて
- 子どもの変化
- 来年度への引き継ぎ・構想の視点で情報共有



1年生
生活科

井手町立泉ヶ丘中学校ブロック

幼児教育から中学校教育までの学びの連続性・一貫性を通して、困難な状況に置かれている児童生徒を含む全ての子どもたちに、未来の担い手として必要な力となる「認知能力」と「非認知能力」を一体的にはぐくむ学校モデルを構築する。

【泉ヶ丘中学校ブロック】小中合同研修会の実施
＜JU ジョイント・アップ 町内夏季研修会の実施＞

趣旨の共有

注目する概念及び質問項目をブロックで統一

井手町立泉ヶ丘中学校



校内研修において生徒質問紙調査の結果を経年比較し、担当学年ごとに協議をしました。自校の強みと弱みを可視化することができ、今後の授業改善について意見を出し合うことができました。



学びのパスポート活用推進事業
についての共通理解

4つの質問に関する質問紙調査の
結果をもとにした意見交換

交流した意見の共有
今後の方向性に向けた確認

これまでに取り組んできた実践や、今後挑戦してみたい実践について出た意見＜一部抜粋＞
自己調整・・・教員が手を差し伸べたい気持ちを抑え、「見守る」姿勢を大切にする。
思考の柔軟性・・・1人学びで意見を持たせつつ、交流を通じて自由に考えを変えてよいと伝えている。
目標に向けて取り組む姿勢・・・成功体験と教員の価値付けの声掛けを積み重ねることが大切。
精緻化・・・教師が資料を示しすぎており、情報が多すぎて整理しきれていないのではないか。

＜JUジョイントアップ 小中合同授業研の実施＞



学校の重点目標と連動した
非認知能力を発揮する授業の実践
井手町立井手小学校
RV-PDCA

重点目標に沿った
実践の質を高めるためのアイデアを共有

「非認知能力に働きかける授業」
の視点から指導助言

Research Vision Plan
学校経営方針に基づいた計画の作成

- 引継ぎ資料の確認
(個別支援データ・各種調査・アンケート)
- 指導計画・人権レポート
(個に応じた支援)等の作成
- 校内研修での共有化
・授業づくり「3Step」
・学校改善プラン

主体的に生き抜く力を育成する
～子どもの主体性を育む取組を通して～

Action
評価に基づいて、解決策を検討する。

- 授業づくり・授業展開の改善
→ 指導の改善
(校内研修・学年会)
- 個に応じた支援
→ 指導の改善
(ケース会議・校内委員会)

Do

- 計画に基づいて実行する
- 認知能力
「読み取るスキル」「整理・分析するスキル」「まとめる・伝えるスキル」
- 非認知能力
自己調整・思考の柔軟性・目標に向けて取り組む姿勢・精緻化

Check

- 結果データを分析する。
- 学びスタート調査(1年・4月)
- アンケート実施(5・10月)分析(7月・12月)
- 全国学力学習状況調査分析(7月)
- 京都府学力学習状況調査分析(7月)
- 標準学力調査実施(1月)分析(3月)
- 各種テスト・見取り

本校の取組

井手町立多賀小学校

プレゼンテーションの取組

one step 1

活用スキルの向上

[方法]
校内を3つのブロックに分けてプレゼンテーションを実施

one team 2

児童同士の交流

[方法]
3つのブロックで児童同士が評価し合う「プレゼンテーション大会」
優勝チームは全校の前で発表

one up 3

学びの深まり

[方法]
授業内容から発展
これまでの学習を活かしながら、目的によって伝える相手を選んでいく

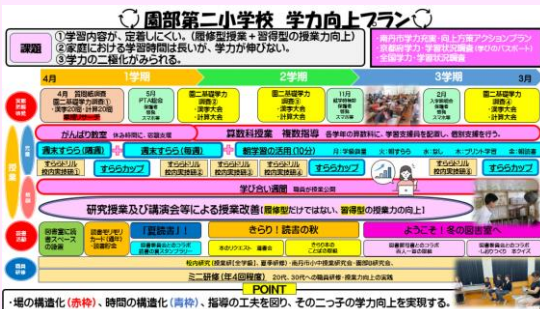
南丹市立園部中学校ブロック～ブロック目標～ 学びのパスポートの活用による認知能力と非認知能力の 一体的な指導の在り方について

南丹市立園部小学校

学力向上プラン

南丹市立園部第二小学校

学年主任・教務主任
・研究主任が集まり、
今できることを考える

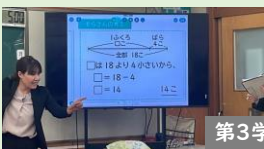


自分たちで
解決したいと思える
課題の提示

子どもが楽しい!教師も楽しい!算数科
～学習意欲を高める授業づくりから
確かな学力の定着を目指して～

非認知能力の涵養に向けて
○指導案の変更
○個に焦点をあてた授業の見取り

授業で伸ばす
○主体性を引き出せる授業の実現
○根気強く話し合っ課題を解決
しようとする学級風土づくり



ペアで話し合う

これからの挑戦

○研究活動にEBPMの視点をいれ、客観的なデータを分析・活用しながら働き方改革＝働きがい改革を両立した研究活動を推進する。

※EBPM=Evidence-based Policy Making『客観的なエビデンスに基づく政策立案』

○課題解決型の学習を学年に応じて内容を検討しながら、全学年での実施を目指し、キャリア教育の視点を「総合的な学習の時間」を超えた教科指導の中で活用していく。

涵養したい非認知能力

- 目標に向けて取り組む姿勢
- チャレンジ精神
- 計画性

公開授業指導案への工夫

- 授業の中での非認知能力の涵養に向けて
- ギミック(仕掛け)の設定
- 指導案の変更

3校での
研究推進部



学習サイクルの具体化

「主体的・対話的で深い学び」の充実につながる学習サイクル



【ギミック】自分を高めるための「チャレンジ精神」を醸成するために、取り組んだことのないパフォーマンス課題を設定し、ヒントカードの提示や班で協力して仮説を立てるようにする。

自分の考えを持つ

集団で話し合う



南丹市立園部中学校

3校で目指す像を確認し、連携しながらも、各校の特徴を生かして研究を進める